

東北大学入試センター

令和3年度年報

令和5年3月

巻頭言

東北大学入試センター長 長濱 裕幸

(東北大学大学院理学研究科地学専攻教授)

東北大学では、1907年の開学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」を基本理念に、日本と世界の将来を担う人材を育てることを最大のミッションとして、現在まで161,314人(2021年3月31日現在)の卒業生を輩出してまいりました。入学者選抜は大学と社会との関わりの中で重要な意味を持っています。東北大学における教育を通じて指導的人材を育成し社会に貢献すること、また大学における教育・研究の基礎となるのは個々の構成員であることから、入学者選抜は教育・研究機関としての東北大学の評価にも大きく影響することになります。そこで、国立大学初のアドミッションズ・オフィス(AO)入試の実施組織として、東北大学アドミッションセンターが1999年4月に設立され、その後、学部入試と大学院入試を含む東北大学の入学者選抜を統括するために、東北大学入試センターが2005年4月に発足しました。

基本方針が入学者選抜要項等にも記載されているアドミッション・ポリシーは、策定してから10年以上経ており、数年前に策定のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関連を緊密にすすめるために、本センターを中心に改訂作業を行っており、各学部のポリシーも見直しているところです。大学・学部・選抜方法の各段階で、様々なアドミッション・ポリシーが掲げられていますが、東北大学建学以来の「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の三つの理念に基づき、本学に相応しい学生を選抜するという基本線は共通しています。具体的には、「21世紀の人類社会の課題に対して、真剣に取り組む研究者として」或いは「豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として」社会に貢献しようとする志を持ち、これを実現する固い意志、学問に対する探究心、本学学士課程を受けるのに相応しい高水準の学力を備えた学生を選抜すべく、入試センターとしても各学部と連携して取り組んでまいりました。

本学は、2017年6月30日付けで、文部科学大臣より指定国立大学法人の指定を受けました。指定国立大学法人に向けた構想は、これまでに培ってきた教育研究の成果や伝統を基盤としつつ、卓越した教育研究を通して絶えることなく人類社会に貢献する知を創造するとともに、新たな時代に向けた社会・経済システムの変革を先導することを目指して、「創造と変革を先導する大学」への進化を図るものです。東北大学は朝日新聞出版の大学ランキングで、全国の高校進路指導の先生方のアンケートのうち高校からの「総合評価」で大学ランキング2016までは11年連続全国1位でした。大学ランキング2017では残念ながら2位でしたが、大学ランキング2018以降から大学ランキング2021まで再び連続で1位となりました。また、入学後「生徒が伸びた」でも全国1位の評価を受けております。このことは全学教育を始めとする東北大学の教育に対して、先生方から高い評価を頂いたものと受け止め、いただいた評価に相応しくあるために、襟を正し努力してゆく所存です。入試センターとしてもオープンキャンパスや大学案内や各説明会での広報活動を通し、情報提供に努めてまいります。

東北大学の志願者についてですが、令和3年度入試と令和4年度入試を比較すると少子化に加えて、共通テスト2年目で数学の全国平均点が大幅に下がり、受験生の志望校選択と安定志向のためか本学の受験生もやや減少となりました。また、極めて残念なことに東北地方出身者、宮城県出身者についても減少しております。本学としては、引き続き、東北地方志願者の増加に向けて努めていく所存です。

AO入試を多面的・総合的評価による重要な選抜方法として位置付け、平成33年度入試(平成32年度実施)までにAO入試入学定員を30%に拡大する方針を決定し、

2020年度は経済学部で新たに理系を対象としたAO入試が導入され、AO入試全体としては、2022年度入試で31.5%に達しました。言うまでも無く、本学の高大接続改革への取り組みはAO入試や特別選抜の枠の拡大に尽きるものではありません。部局評価指標では、指定国立大学法人構想調書に掲げる目的の達成の為の重要施策として、AO入試実施方法も合わせて本格的な検証と再評価を進め、学部に対する全学的な支援体制の一層の充実が大いに期待されているところです。そのために私どもは、個々人の研究と共同研究、部局との連携で解決する課題、全学の協力でなしうるもののそれぞれにおいて、尚一層、力を尽くしてまいります。

AO入試30%への拡大方針の下、オープンキャンパスや進学説明会・相談会等を通じて入試に関する情報提供に努めてまいりました。特にオープンキャンパスは、全国でも最大規模のイベントに成長し、2019年度は68,403名が参加し、過去最高の延べ参加人数となりました。(朝日新聞出版「大学ランキング2021」で1位)しかし、2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインオープンキャンパスを開催し、158,256名のオンラインでの参加がありました。今後も、高校生の皆さんにとって、より魅力ある大学としてのオープンキャンパスを企画していきたいと考えております。

さらに、高大接続改革が進む中、平成28年度以降東北大学入試センター自体にも、人事面を中心に大きな改革がありました。2021年から須藤彰三名誉教授、飛田博実名誉教授、高木泉名誉教授(10,11月の二か月間)、浦川肇名誉教授の先生方にご尽力頂きました。また阿部和久特任教授は4月に、南紅玉助教は10月に着任されました。樫田豪利特任教授は10月に、秦野進一特任教授と浦川名誉教授が3月末に辞職されました。これによって本センターはセンター長を含め、2022年3月現在で9名体制となりました。2022年4月からは数学と物理の特任教授2名が加わるほか、名誉教授による特定教授制度(国語、数学、物理学、化学の各1名)がスタートする予定です。このようなマンパワーの増強により、着任された先生方には各学部の様々なニーズに応じていただいております。AO入試による募集人員を30%に拡大するという本学の方針を着実に進めてまいりました。また、入試説明会とその成果の相関分析をより緻密なものにすることが可能になっております。一層の受験者増につながるための細かいデータを部局に提供しているところです。

本センターは全学と協議しつつ、コロナ禍において、感染対策を徹底し、追試を含め個別入試とオンラインと対面を併用した、私費外国人留学生入試を行いました。本センターのこれからの取り組みにご理解を頂き、今後とも変わらずご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目 次

巻頭言

1. 東北大学入試センターの組織	
1. 1 入試センターの沿革と組織概要	1
2. 令和4年度東北大学入学者選抜概要	3
2. 1 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）	3
2. 2 入学者選抜日程	5
2. 3 入学定員・募集人員	8
2. 4 入学試験実施状況	11
2. 5 志願者数の変遷	26
	p12-28は非公開
3. 令和3年度東北大学入試広報活動	29
3. 1 入試広報の概要	29
3. 2 東北大学案内（入試広報冊子）	30
3. 3 オープンキャンパス	31
3. 4 教員対象入試説明会	33
3. 5 各種入試説明会状況（令和3年度）	35
3. 6 高校生・保護者対象の東北大学進学説明会・相談会〔主催：東北大学〕	36
3. 7 高校の要請による講師派遣状況（令和3年度実績）	37
3. 8 広報活動の成果	41
4. 入試センター教員の活動	60
4. 1 東北大学入試の中長期的な企画・改善検討	60
4. 2 入学者選抜の実施	62
4. 3 入試広報活動	62
4. 4 高大接続・連携事業	62
4. 5 国立大学アドミッションセンター連絡会議	63
4. 6 個別教員の活動	63

1. 東北大学入試センターの組織

1. 1 入試センターの沿革と組織概要

(1) 沿革

- 平成11年4月1日 東北大学アドミッションセンター設立（センター長および専任教員3名）
平成16年10月1日 アドミッションセンターの教員組織が東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部入試開発室に改組（専任教員定員は変わらず）
アドミッションセンターは業務組織として存続
平成17年4月1日 業務組織としてのアドミッションセンターが東北大学入試センターに改組
平成26年4月1日 入試センターの教員組織が東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室に改組（専任教員定員は変わらず）
平成28年4月1日 高大接続改革における入試改革のために入試センターを拡充，高校教員出身の特任教授2名及び若手教員1名を任期付きで採用，以後増員を図る。
平成29年4月1日 入試センターを拡充し，専任教員4名，特任教員4名の体制となった。

(2) 組織概要（令和3年度）

入試センター長

長濱裕幸（東北大学大学院理学研究科教授）

兼務教員（高度教養教育・学生支援機構 入試開発室専任教員）

倉元直樹（教授，教育心理学・社会心理学；大学入試／測定評価／文化心理学等）

宮本友弘（教授，教育心理学；教育工学）

久保沙織（准教授，心理統計学・教育測定）

南 紅玉（助教，教育学・生涯学習論）

特任教員

榎田豪利（特任教授，化学教育），秦野進一（特任教授，英語教育）

末永 仁（特任教授，生物教育），阿部和久（特任教授，国語教育）

須藤彰三（名誉教授，物理教育），飛田博実（名誉教授，化学教育）

浦川 肇（名誉教授，数学教育），高木 泉（名誉教授，数学教育）

教育・学生支援部入試課（定員8名）

嶋津貴宏入試課長，大友利之入試課長補佐，遠藤学入試企画・調査係長，

松田和之入試実施係長，高橋照幸入試実施係主任，

岩間翔入試実施係員／金濱栄作入試実施係主任，

大友俊弥入試広報係長，矢野惇入試広報係員

(3) 歴代センター長

アドミッションセンター長：

第1代	中塚勝人（工学研究科教授）	平成11年4月1日～平成12年3月31日
第2代	澤谷邦男（工学研究科教授）	平成12年4月1日～平成13年3月31日
第3代	青木國彦（経済学研究科教授）	平成13年4月1日～平成14年3月31日
第4代	坂巻 清（経済学研究科教授）	平成14年4月1日～平成15年3月31日
第5代	大家 清（歯学研究科教授）	平成15年4月1日～平成17年3月31日

入試センター長：

- | | | |
|-----|-----------------|----------------------|
| 第1代 | 鴨池 治（経済学研究科教授） | 平成17年4月1日～平成21年3月31日 |
| 第2代 | 安藤朝夫（情報学研究科教授） | 平成21年4月1日～平成23年3月31日 |
| 第3代 | 米本年邦（工学研究科教授） | 平成23年4月1日～平成25年3月31日 |
| 第4代 | 牧野 周（農学研究科教授） | 平成25年4月1日～平成27年3月31日 |
| 第5代 | 鈴木道男（国際文化研究科教授） | 平成27年4月1日～平成29年3月31日 |
| 第6代 | 長濱裕幸（理学研究科教授） | 平成29年4月1日～ |

2 令和4年度 東北大学入学者選抜概要

2. 1 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）〈令和3年4月1日現在〉

東北大学の理念

百余年の歴史と輝かしい伝統を有する東北大学は、明治40年（1907）の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、優れた教育・研究を展開してきました。本学は未来に向けてこの実績を継承しつつ更なる飛躍を図り、世界をリードするワールドクラスの教育・研究拠点として、世界が直面する困難かつ複雑な課題に挑戦し、人類社会の発展に大きく貢献します。

そのために、学部や大学院、研究所等、全学の総力を結集して、人類社会の未来を担う高い倫理性を備えた国際的リーダーを育成するとともに、世界水準の創造的な研究を展開し、その成果を広く社会へ還元することに努めます。

東北大学の特徴

① 創立以来の三つの理念

創立後すぐに「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を確立し、時代に応じてその内容を一層発展させています。

② 教育環境に恵まれた総合大学

10学部、15研究科、3専門職大学院及び6研究所をはじめとする多数の教育研究組織・施設を擁し、学部・研究科と研究所等のスタッフが一体となって教育を行います（教員約3,000人、学部学生入学定員約2,400人、大学院学生入学定員約2,700人）。

③ 研究大学

国際的な研究成果を多数生み出し、先端的研究と教育を一体的に進める大学です。

④ 積極的な地域連携・産学連携

地域や産業界との間に多様な連携を積極的に発展させています。

⑤ 教育研究のグローバル化

本学は国立大学の中でも最も多い海外協定大学を有する大学の一つであり、活発な教育・研究交流を展開しています。多くの留学生を受け入れるとともに、海外留学を積極的に支援し、グローバルに活躍する人の育成に力を入れています。

東北大学が学部志願者に求める学生像

東北大学では、上記に掲げた理念のもとに、学士課程を通じて、

① 専門分野に関する知識及び学問全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有し、

② 教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献でき、

③ グローバル社会において指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備える人を育成します。

また学士課程教育では、幅広い知識や素養を育成する全学教育科目と専門分野の基盤的知識を習得させる専門教育科目を有機的に関連させたカリキュラムを提供し、授業内外での能動的な学習を推進するとともに、学生の自律的学習力を育成します。

このため、東北大学は、上記の本学理念に共感し、

① 21世紀の人類社会の課題に対し研究者として真剣に取り組み優れた貢献をしようとする志と

② 豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として社会の発展に優れた貢献をしようとする志を抱き、これを実現する固い意志と学問に対する強い好奇心を持つとともに、上記の本学学士課程教育を受けるにふさわしい高水準の学力を備えた学生を求めています。高水準の学力とは、具体的には、高等学校等で幅広い教科目を履修して優れた成績を収め、論理的思考力や問題発見力、分析解決能力、豊かな創造力、発想力、表現力、コミュニケーション能力を有することを指します。さらに倫理性や、学問の課題に主体的にリーダーシップを発揮しながら他の学生と協働して取り組むことができる態度を備えていることを求めます。

東北大学の入試方法（学部）

東北大学が求める学生を選抜するために学部，学科（系），または，専攻ごとに一般選抜入学試験（一般選抜），ＡＯ入試（総合型選抜）及び各種の特別選抜入学試験（特別選抜）を実施します。

一般選抜では，５～６教科７科目の大学入学共通テストで幅広い知識・技能を含む基礎学力を評価するとともに，前期日程（全学部）では３教科，後期日程（２学部）では２教科（理学部，経済学部文系入試）又は１教科（経済学部理系入試）の個別学力試験で，本学の学修に適合する思考力・判断力・表現力等を含むより高い学力を測る試験を行い，これらを主たる選抜資料として合格者を判定します。判定においては個別学力試験の成績を重視します。さらに，調査書と対応したチェックリストにより主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を確認するとともに，経済学部後期日程理系入試では経済社会問題への関心と意欲等を，医学部，歯学部については医療人としての適性を問う面接試験を行います。

東北大学を第一志望とする受験者を対象としたＡＯ入試では，高等学校における学業成績や大学入学共通テスト，個別の筆記試験，面接試験や出願書類の審査等による選考を行います。この選考では幅広い知識，技能を含む基礎知識や論理的な思考力・判断力・表現力，コミュニケーション能力等の学力とともに，豊かな人間性や創造力，発想力，倫理性，主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度，学問に対する好奇心などを評価します。学力については，一般選抜と同等以上の水準を求めます。

特別選抜では，多様な背景を持つ人をそれぞれの特性に基づく試験により評価します。

各学部のアドミッション・ポリシー（略）

2. 2 入学者選抜日程

選抜の種類 及び 実施 学部	一般選抜入学試験 (一般選抜)		AO入試 (総合型選抜)	
	前期日程	後期日程	Ⅱ 期	Ⅲ 期
	全学部	経済学部 理学部	文学部 教育学部 法学部 理学部 医学部 歯学部 工学部 農学部	全学部
事項				
募集要項の 発表	11月中旬		8月下旬	11月中旬
出願受付	令和4年(2022年) 1月24日(月) ～2月4日(金)		10月15日(金) ～21日(木)	令和4年(2022年) 1月20日(木) ～24日(月)
第1次選考 の実施	—		11月6日(土)	—
第1段階選抜 (第1次選考) の結果発表	令和4年(2022年) 2月14日(月)		11月12日(金)	令和4年(2022年) 2月8日(火)
個別学力試験 (第2次選考) の実施	令和4年 (2022年) 2月25日(金) ～26日(土)	令和4年 (2022年) 3月12日(土)	11月20日(土)	令和4年 (2022年) 2月12日(土)
合格者発表	令和4年 (2022年) 3月9日(水)	令和4年 (2022年) 3月22日(火)	11月26日(金)	令和4年 (2022年) 2月14日(月)
入学手続	令和4年 (2022年) 3月12日(土) ～15日(火)	令和4年 (2022年) 3月25日(金) ～26日(土)	12月13日(月) ～16日(木)	令和4年 (2022年) 2月15日(火) ～21日(月)

注) AO入試Ⅰ期は、平成25年度入試をもって廃止しました。

参考 大学入学共通テスト 試験日 [<https://www.dnc.ac.jp/>]

本試験： 令和4年(2022年) 1月15日(土)～16日(日)

追試験： 令和4年(2022年) 1月29日(土)～30日(日)

選抜の種類 及び 実施 学部	特別選抜入学試験 (特別選抜)				
	地域枠入試	科学オリ ピック入試	国際バカロレア入試		帰国生徒 入試
	医学部医学科	理学部	文学部 理学部 医学部医学科 工学部 農学部	法学部 薬学部	理学部 医学部医学科
事項					
募集要項の 発表	11月中旬	8月下旬	8月下旬		8月下旬
出願受付	令和4年 (2022年) 1月20日(木) ~24日(月)	10月15日(金) ~21日(木)	10月15日(金) ~21日(木)	令和4年(2022年) 1月20日(木) ~24日(月)	10月15日(金) ~21日(木)
第1次選考 の実施	—	11月6日(土)	11月6日(土)	—	11月6日(土)
第1次選考 の結果発表	令和4年 (2022年) 2月8日(火)	11月12日(金)	11月12日(金)	—	11月12日(金)
選抜試験 (第2次選考) の実施	令和4年 (2022年) 2月12日(土)	11月20日(土)	11月20日(土)	令和4年 (2022年) 2月12日(土)	11月20日(土)
合格者発表	令和4年 (2022年) 2月14日(月)	11月26日(金)	11月26日(金)	令和4年 (2022年) 2月14日(月)	11月26日(金)
入学手続	令和4年 (2022年) 2月15日(火) ~21日(月)	12月13日(月) ~16日(木)	12月13日(月) ~16日(木)	令和4年 (2022年) 2月15日(火) ~21日(月)	12月13日(月) ~16日(木)

参考 日本留学試験 試験日：11月14日(日) (第2回) [<https://www.jasso.go.jp/eju/>]

選抜の種類 及び 実施 学 部	特 別 選 抜 入 学 試 験 (特 別 選 抜)				
	帰国生徒 入試	私費外国人 留学生入試	グローバル入試		国際学士コース入試
	工学部	全学部	工学部	理学部 工学部 (10月入学)	理学部 工学部 農学部 (10月入学)
第Ⅰ期募集			第Ⅱ期募集		
事 項					
募集要項の 発 表	8月下旬	8月下旬	8月下旬		5月中旬
出 願 受 付	令和4年(2022年) 1月20日(木) ~24日(月)	令和4年 (2022年) 2月7日(月) ~10日(木)	10月15日(金) ~21日(木)	令和4年 (2022年) 1月4日(火) ~7日(金)	令和4年 (2022年) 1月5日(水) ~12日(水)
第1次選考 の 実 施	—	—	11月6日(土)	—	—
第1次選考 の 結 果 発 表	—	—	11月12日(金)	令和4年 (2022年) 2月14日(月)	令和4年 (2022年) 2月14日(月)
選 抜 試 験 (第2次選考) の 実 施	令和4年 (2022年) 2月12日(土)	令和4年 (2022年) 3月10日(木)	11月20日(土)	令和4年 (2022年) 3月上~中旬	令和4年 (2022年) 3月上~中旬
合 格 者 発 表	令和4年 (2022年) 2月14日(月)	令和4年 (2022年) 3月18日(金)	11月26日(金)	令和4年 (2022年) 4月1日(金)	令和4年 (2022年) 4月1日(金)
入 学 手 続	令和4年 (2022年) 2月15日(火) ~21日(月)	令和4年 (2022年) 3月24日(木) ~27日(日)	12月13日(月) ~16日(木)	令和4年 (2022年) 4月1日(金) ~8日(金)	令和4年 (2022年) 4月1日(金) ~8日(金)

2. 3 入学定員・募集人員

学部・学科等		入学定員	募 集 人 員												
			一般選抜		ＡＯ入試		特 別 選 抜								
			前期日程	後期日程	Ⅱ期	Ⅲ期	地域枠入試	科学オリ ンピック入試	国際バカ レア入試	帰国生徒入試	私費外国人 留学生入試	グローバル 入試Ⅰ期	グローバル 入試Ⅱ期	国際学士 コース入試	
文学部	人文社会科学	210	147		27	36				若干人		若干人			
教育学部	教育科学科	70	49		14	7						若干人			
法学部	法 学 科	160	112		24	24				若干人		若干人			
経済学部	経済学科 経営学科	260	文系 147	文系 25		文系 58						若干人			
			理系 10	理系 10											
理学部	数学系	数 学 科	45	27	8	10				若干人	若干人	若干人	若干人		
	物理系	物理学科 宇宙地球物理学科	119	74	20	15	10			若干人	若干人	若干人	若干人		
	化学系	化 学 科	70	40	13	5	12			若干人	若干人	若干人	若干人	若干人	若干人
	地球 科学系	地圏環境科学科 地球惑星物質科学科	50	29	10	5	6			若干人	若干人	若干人	若干人		
	生物系	生 物 学 科	40	26	4	6	4			若干人	若干人	若干人	若干人		
	小 計		324	196	55	41	32			若干人	若干人	若干人	若干人		若干人
医学部	医 学 科		105	75		15	12	宮城 7 岩手 2		3					
	保健 学 科	看護学専攻	70	50		10	10					若干人			
		放射線技術科学専攻	37	25		4	8					若干人			
		検査技術科学専攻	37	25		4	8					若干人			
	小 計		249	175		33	38			医学科は合わせて 3					
歯学部	歯 学 科	53	37		6	10					若干人				
薬学部	創薬科学科 薬 学 科	80	56			24			若干人		若干人				

学部・学科等		入学定員	募 集 人 員											
			一般選抜		A O 入 試		特 別 選 抜							
			前期日程	後期日程	Ⅱ期	Ⅲ期	地域枠入試	科学オリンピック入試	国際バカロレア入試	帰国生徒入試	留学生入試	私費外国人入試	グローバル入試Ⅰ期	グローバル入試Ⅱ期
工学部	機械知能・航空工学科	234	164		25	30			若干人	若干人	若干人	若干人	15	
	電気情報物理工学科	243	170		36	37			若干人	若干人	若干人			
	化学・バイオ工学科	113	79		17	17			若干人	若干人	若干人			
	材料科学総合学科	113	79		17	17			若干人	若干人	若干人			
	建築・社会環境工学科	107	75		17	15			若干人	若干人	若干人			
	小 計	810	567		112	116			若干人	若干人	若干人	若干人	15	
農学部	生物生産科学科 応用生物化学科	150	105		23	22			若干人		若干人			若干人
計		2,366	1,601	90	280	377	9	若干人	若干人	若干人	若干人	若干人	若干人	若干人
									医学部医学科は合わせて 3			若干人	工学部機械知能・航空工学科は合わせて 15	

- (注) 1 入学定員の中には、若干人と記載のある入試の募集人員を含みます。
2 全学部が行うA O入試において、合格者数が募集人員に満たない場合には、その欠員分は一般選抜（前期日程）の募集人員に加えます。
3 合格者発表の後、入学手続き者が入学定員に満たない場合には、追加合格による欠員補充を行うことがあります。

2 募集方法

学部・学科		募集方法
文学部 教育学部 法学部		・学部単位で募集します。
経済学部		・一般選抜，AO入試：文系入試・理系入試の2入試単位で募集します。志願する入試区分を一つ選んでください。 ・私費外国人留学生入試：学部単位で募集します。
理学部		・系単位で募集します。 一般選抜： 第2志望の系まで選ぶことができます。 ただし，後期日程については，数学系は第1志望のみの募集とします。 AO入試・科学オリンピック入試・国際バカロレア入試・帰国生徒入試・私費外国人留学生入試： 志望する系を一つ選んでください。
医学部	医学科	・学科単位で募集します。
	保健学科	・専攻単位で募集します。
歯学部 薬学部		・学部単位で募集します。
工学部		・学科単位で募集します。 一般選抜： 第3志望の学科まで選ぶことができます。 AO入試・国際バカロレア入試・帰国生徒入試・私費外国人留学生入試： 志望する学科を一つ選んでください。
農学部		・学部単位で募集します。

3 受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者との事前相談

受験上及び修学上の配慮を必要とする者は，必ず事前に相談の上，入試課（71 ページ参照）へ申請用紙を請求し，以下の期日までに提出してください。以下に記載のない入試については，各募集要項で定める所定の期日までに提出してください。

申請の内容について，本学において，入学志願者や関係者等との面談を行う場合があります。

なお，所定の期日を過ぎてから申し出があった場合や，相談の内容によっては対応できないことがあります。できるだけ早めに申し出てください。

AO入試Ⅱ期	令和3年（2021年）9月17日（金）
AO入試Ⅲ期	令和3年（2021年）12月14日（火）
一般選抜	令和3年（2021年）12月14日（火）

令和4年度入学試験実施状況(総括表・4月入学)

令和4年4月1日

区分	入学定員	募集人員	志願者数	倍率	第1次選考受験者数	第1次選考合格者数	第2次選考受験者数	第2次選考合格者数	入学者数
一般選抜	法学部	210	147	426	2.03倍	426	424	386	163
	経済学部	160	172	499	3.12倍	499	499	458	177
	理学部	260	202	622	2.39倍	622	622	568	219
	医学部	324	251	1,338	4.15倍	1,338	1,086	649	279
	工学部	116	77	242	2.08倍	242	231	212	81
	農学部	70	50	134	1.91倍	134	134	116	50
	芸術学部	37	25	85	2.30倍	85	76	66	33
	保健学部	144	100	266	1.85倍	266	257	221	109
	総合学部	260	177	508	1.89倍	508	488	433	196
	薬学部	53	37	75	1.40倍	75	66	43	21
	工学部	80	56	163	2.04倍	163	163	136	59
	工学部	810	567	1,500	1.84倍	1,500	1,500	1,433	599
	工学部	150	105	261	1.74倍	261	261	232	112
	工学部	2,377	1,693	5,724	3.39倍	5,724	5,348	4,733	1,850
	工学部	-	27	93	3.44倍	93	40	40	27
AO入試Ⅰ期	法学部	-	14	39	2.79倍	39	38	26	14
	経済学部	-	41	81	1.98倍	81	81	36	24
	理学部	-	24	138	5.75倍	138	138	64	33
	医学部	-	10	32	3.20倍	32	32	30	10
	工学部	-	4	16	4.00倍	16	16	8	4
	農学部	-	12	12	1.00倍	12	6	6	1
	芸術学部	-	18	64	3.56倍	64	33	33	15
	工学部	-	33	149	4.52倍	149	83	83	30
	工学部	-	6	16	2.67倍	16	10	10	6
	工学部	-	112	352	3.14倍	352	219	219	112
	工学部	-	23	58	2.52倍	58	40	40	23
	工学部	-	280	928	3.31倍	928	518	269	269
	工学部	-	36	80	2.22倍	80	54	54	36
	工学部	-	24	51	2.13倍	51	36	36	24
	工学部	-	58	60	1.03倍	60	60	59	52
AO入試Ⅱ期	経済学部	-	10	17	1.70倍	17	17	17	11
	理学部	-	32	81	2.53倍	81	47	47	28
	医学部	-	10	25	2.50倍	25	15	15	10
	工学部	-	8	16	2.00倍	16	16	14	8
	農学部	-	26	52	2.00倍	52	38	38	25
	工学部	-	10	11	1.10倍	11	11	11	6
	工学部	-	24	48	2.00倍	48	36	36	25
	工学部	-	116	243	2.09倍	243	198	198	114
	工学部	-	22	43	1.95倍	43	32	32	22
	工学部	-	756	756	1.00倍	756	579	576	362
	工学部	-	12	12	1.00倍	12	9	9	7
	工学部	-	2	5	2.50倍	5	5	5	2
	工学部	-	9	17	1.89倍	17	14	14	9
	工学部	-	2	2	1.00倍	2	2	2	0
	特別選抜	理学部	-	0	0	-	0	0	0
法学部		-	1	1	1.00倍	1	1	1	0
経済学部		-	0	0	-	0	0	0	0
医学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
農学部		-	0	0	-	0	0	0	0
芸術学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
工学部		-	0	0	-	0	0	0	0
合計		2,377	2,353	7,510	3.16倍	7,438	6,466	5,330	2,442

※1: 地域特入試(医学部医学科)の高専地域枠のうち高専出身者4名以上 ※2: 医学部医学科の国際バカロニア入試・私費外国人留学生入試・帰国生入試の入学定員は合計3名

3. 令和3年度東北大学入試広報活動

3. 1 入試広報の概要

令和3年度の入試広報は、以下のような基本方針および内容によって実施した。

基本方針：

- 1) 特色化 対面とともにオンラインを活用してオープンキャンパス、高校との意思疎通を円滑にするきめ細かな高校訪問などの本学の特色ある活動を継続、充実させていく。
- 2) 焦点化 対面及びオンラインによる入試説明会、進学説明会・相談会等の実施方法を絶えず点検し、対象地域や対象層、説明内容等について焦点を明確にし、より効果的に浸透する方法を開拓する。
- 3) 広域化 オンラインを活用して広域型活動を充実させていくとともに、特定対象型（高校訪問、説明会等）においても対象地域を広げる試みを継続する。
- 4) AO入試30%方針の下で、AO入試志願者が少ない地域への広報活動を強化する。

内容：

- (1) オープンキャンパス
 - ・対面オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、延期ののち中止
 - ・オンラインオープンキャンパスサイトの公開
 - 6月21日（月）～令和4年3月31日（木）まで
 - 7月28日（水）29日（木）及び9月19日（日）～9月30日（木）まで、ライブイベントを集中開催
- (2) 「東北大学案内」の作成・配布
 - ・2022年度版を6月に配布（3万5千部）
 - ・2023年度版作成に向けて準備開始（6月～）
- (3) 本学ウェブサイトによる入試情報提供
 - ・「入試センターウェブサイト」により有効な情報提供について引き続き検討する
- (4) 東北大学入試説明会（高校教員対象）
 - ・入試説明会（仙台会場） 全学部参加
 - 6月29日（火）
 - ・オンライン入試説明会 入試センター教員が実施
 - 6月14日（月）～6月24日（金）まで、追加開催8月27日（金）
- (5) 東北大学進学説明会・相談会（高校生対象）
 - ・オンライン進学説明会・相談会サイトの公開
 - 6月21日（月）～令和4年3月31日（木）まで
- (6) その他の入試・進学説明会
 - ①地元高校要請入試説明会
 - ・在仙主要高校説明会（5月）及び在仙3大学説明会（9月）は、要請に応じて開催。
 - ②民間業者等開催の説明会
 - ・夢ナビオンライン（7月10日・11日、10月2日・3日）に参加
 - ・その他主催者からの各種申し込みについては入試センターで適宜対応
- (7) 高校訪問
 - ・入試センター教員が行う高校訪問については、継続して実施。
 - ・各学部実施の高校訪問については、各学部の責任で計画的に実施。
 - ・学部の高校訪問に関して昨年開始した学部報告に基づく情報提供を引き続き実施する。

3. 2 東北大学案内（入試広報冊子）

本案内については、入試企画・広報委員会、広報WGにおいて、本学を志望する高校生、その父母および高校教員等を主対象とした、本学に関する第一次資料（最初に見るまとまった印刷物）と位置づけ、各学部のご案内資料やウェブサイト等の詳細情報、オープンキャンパス、各種進学説明会等のイベントへの導入的機能を持たせるものとし、本学の特徴・独自性が明確に示される内容としている。

作成した 35,000 部は、受験希望者等に配布している。

なお、同案内はデータ化され、本学のウェブサイトにも掲載している。

大学案内
2022年度入学者用



3. 3 オープンキャンパス

(1) オープンキャンパスの概要

①開始時期

東北大学オープンキャンパスは、昭和57年に工学部の金属系3学科が学科公開をしたのが始まりで、平成7年度には工学部の全学科(17学科)が他学部へ先がけてオープンキャンパスを実施した。その後、工学部の他に、理学部及び薬学部が実施していたが、高等学校及び大学内部からの要請もあり、平成11年度より全学部(10学部)において実施している。

平成15年度から大学院研究科や附属図書館も参加、全学的な事業となっている。

②開催の趣旨

本学入学を志す者を対象として、本学の教育・研究を正しく理解し、適切な進路を選択するに当たっての参考に資するため、本学各学部・研究科等の概要を説明するとともに、教育・研究内容、学内の諸施設等を紹介する目的で実施している。

③名称

平成11・12年度における名称は、「平成〇年度受験生のための東北大学説明会及びオープンキャンパス」であったが、平成13年度より「東北大学オープンキャンパス」に変更した。

④実施部局数

当初は学部のみであったが、平成15年度以降は学部以外にも実施する部局(附属図書館や独立研究科等)が増加し、平成31年度では10学部の他に13の部局が実施している。

⑤開催日程について

平成11～21年度は、7月最後の連続する平日2日間で開催していたが、平成22年度以降は、金曜日を除く7月最後の連続する平日2日間、平成26年度以降は、金曜日を除く7月最後の連続する平日2日間、ただし、30日が月曜日と重なる場合、7月31日(火)及び8月1日(水)に開催することとした。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催とした。

⑥オンラインオープンキャンパス開催の経緯

新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスの対面実施が困難となり、これに変わる代替措置として「東北大学オンラインオープンキャンパスサイト」を開設し、令和3年度からは対面とのハイブリッド開催とした(期間:6月下旬～翌年3月31日まで)。

⑦オンラインオープンキャンパスの実施内容

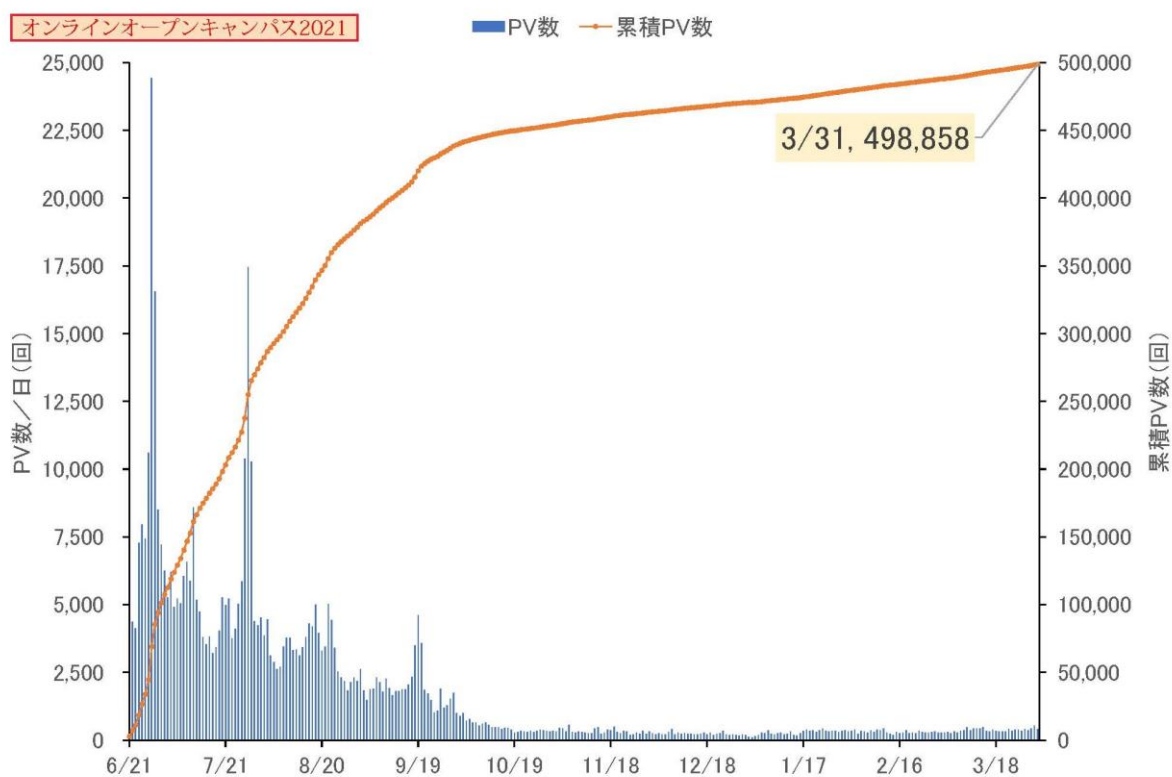
企画の具体的内容については、各学部及びその他の参加部局に一任しており、学部(研究科)概要説明、入試説明会、模擬講義、研究紹介等のオンデマンド配信に加え、ZOOM等ウェブ会議システムを使用してライブイベントを開催した。

⑧本学入学者とオープンキャンパス参加との関係

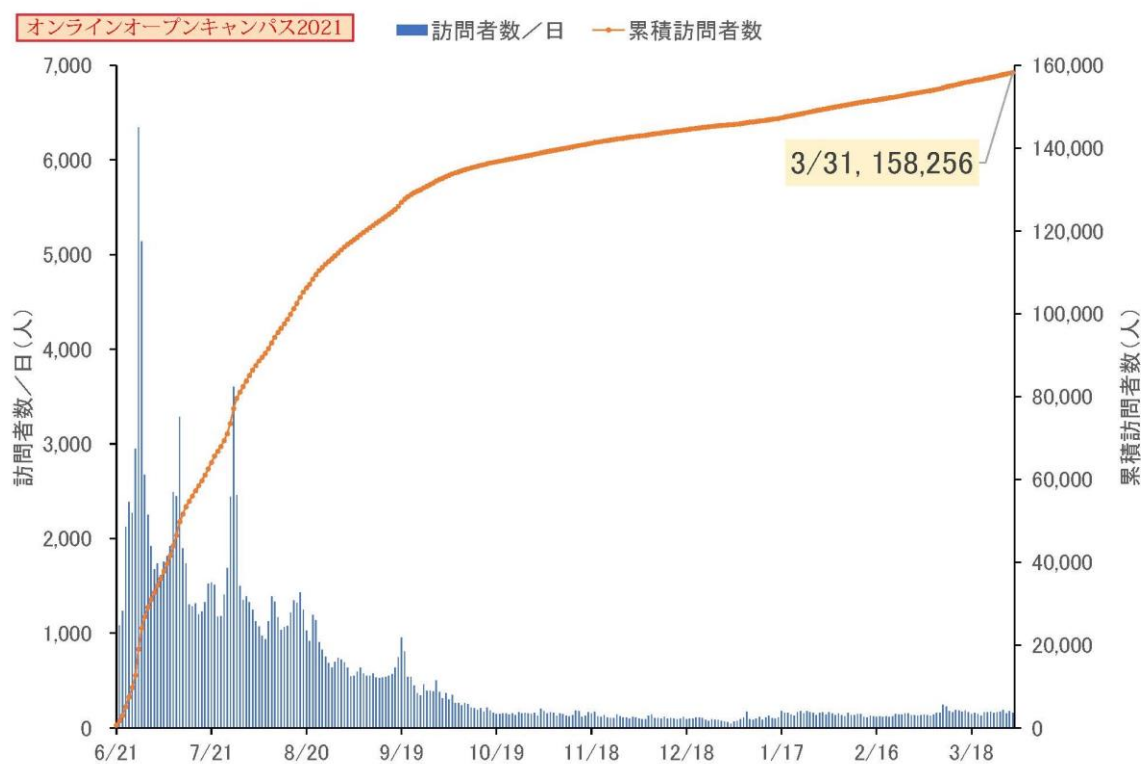
「令和3年度東北大学新入学者対象アンケート」(令和3年度入学者2,420名中2,388名が回答。回答率98.7%)の結果によると、入学者全体のうち、高校在学中に本学のオープンキャンパス(オンライン含む)参加経験率50%台を維持し、大幅な減少はみられなかった(東北地方に所在する高校出身者では91%程度)。また、入学者のうちAO入試受験者の48%がオープンキャンパス参加経験を有しており、オープンキャンパスは進路決定に多大な影響を与えている。

(2) オンラインオープンキャンパスのデータ (令和3年度)

総PV数



総訪問者数



3. 4 教員対象入試説明会（令和3年度）

(1) 入試説明会（仙台会場）

○対象地域：東北及び北関東3県の高校教員を対象

○時期：6月29日（火）13:00～16:40

○会場：仙台国際センター 2F橘 2F萩 3F白樫1 3F白樫2
（仙台市青葉区青葉山265-2211）

○プログラムおよび参加者数：142名（232名） 事前予約制により収容定員の50%で開催

（ ）はR1年度実績 前年度は開催中止

	会場1 (2F橘)	会場2 (2F萩)	会場3 (3F白樫1)	会場4 (3F白樫2)	2F・3F ロビー
13:00	全体会 理事（教育・学生支援担当） 挨拶 入試全体説明	—	—	—	—
13:40	118 (229)				
13:50	理学部	文学部	医学部医学科	現代的リベラル アーツ（グローバル・AI・企業家 精神）	個別相談 コーナー 学部等：18 入試センター：11
14:25	46 (79)	45 (81)	31 (38)	8 (52)	
14:35	薬学部	教育学部	医学部保健学科	キャリア支援	
15:10	33 (67)	42 (33)	46 (64)	4 (14)	
15:20	工学部	法学部	歯学部	特別支援	
15:55	65 (108)	38 (76)	15 (19)	2 (8)	
16:05	農学部	経済学部	—	—	
16:40	51 (57)	48 (92)			

(2) オンライン入試説明会

1. 参加状況

(1) 概要

	予定回数	実施回数	申込者数	参加者数	参加高校数	参加率
R3	20回	20回	287名	229名	202校	79.8%
R2	41回	39回*	273名	226名	194校	82.8%

*申込者0名が2回あったため

(2) セッション別の参加状況

月日	曜日	時間	セッション	申込者数	出席者数	出席率
6月14日	月	15:30-16:30	セッション①	20	15	75.0
		16:00-17:00	セッション②	20	16	80.0
6月15日	火	13:05-14:05	セッション③	14	11	78.6
		15:30-16:30	セッション④	12	9	75.0
6月16日	水	15:30-16:30	セッション⑤	12	8	66.7
		16:00-17:00	セッション⑥	12	11	91.7
6月17日	木	13:05-14:05	セッション⑦	7	6	85.7
		15:30-16:30	セッション⑧	12	10	83.3
6月18日	金	15:30-16:30	セッション⑨	9	7	77.8
		16:00-17:00	セッション⑩	20	16	80.0
6月21日	月	13:05-14:05	セッション⑪	14	11	78.6
		15:30-16:30	セッション⑫	11	9	81.8
6月22日	火	15:30-16:30	セッション⑬	8	8	100.0
		16:00-17:00	セッション⑭	13	10	76.9
6月23日	水	13:05-14:05	セッション⑮	10	9	90.0
		15:30-16:30	セッション⑯	6	5	83.3
6月24日	木	15:30-16:30	セッション⑰	5	5	100.0
		16:00-17:00	セッション⑱	11	8	72.7
合計				216	174	80.6

月日	曜日	時間	セッション	申込者数	出席者数	出席率
8月27日	金	15:30-16:15	セッション①	26	17	65.4%
		16:30-17:15	セッション②	45	38	84.4%
合計				71	55	77.4%

*ウェブ会議システムを使用。

*入試センター教員が担当。

3. 5 各種入試説明会状況（令和3年度）

月日	入試説明会等（本学主催以外）	高校等個別訪問 （入試センター教員）
5月13日	仙台市六校会 東北大学入試説明会	
5月14日		山梨学院高校（オンライン）
6月9日	福島県高等学校長協会主催講演会	
7月8日	秋田県立秋田高等学校説明会	
7月9日		山形県立鶴岡南高等学校、山形県立酒田東高等学校訪問
7月10日	夢ナビライブ 2021in Summer（オンライン）	
7月11日		
7月21日		山形県立山形東高等学校
8月20日		
9月21日	宮城県三大学合同説明会（オンライン）	
10月1日		山形県立米沢興譲館高等学校
10月2日	夢ナビライブ 2021in Autumn（オンライン）	
10月3日		
10月11日		山形県教育委員会
11月17日	山形県進学指導重点校校長対象講演会	
11月29日		宮城県仙台第一高等学校
12月2日		埼玉県立大宮高等学校
12月8日		東京都立小松川高等学校
12月11日		山形県立東桜学館高等学校
12月14日		岩手県立盛岡第一高等学校

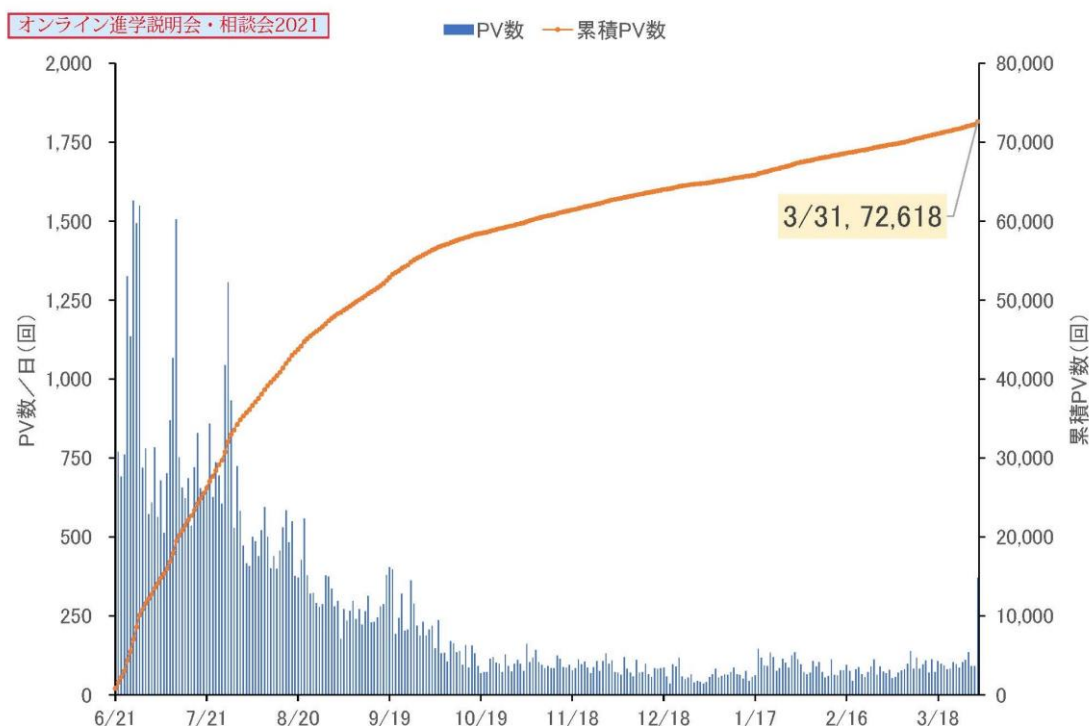
3. 6 高校生・保護者対象の東北大学進学説明会・相談会 [主催：東北大学]

(1) オンライン進学説明会・相談会

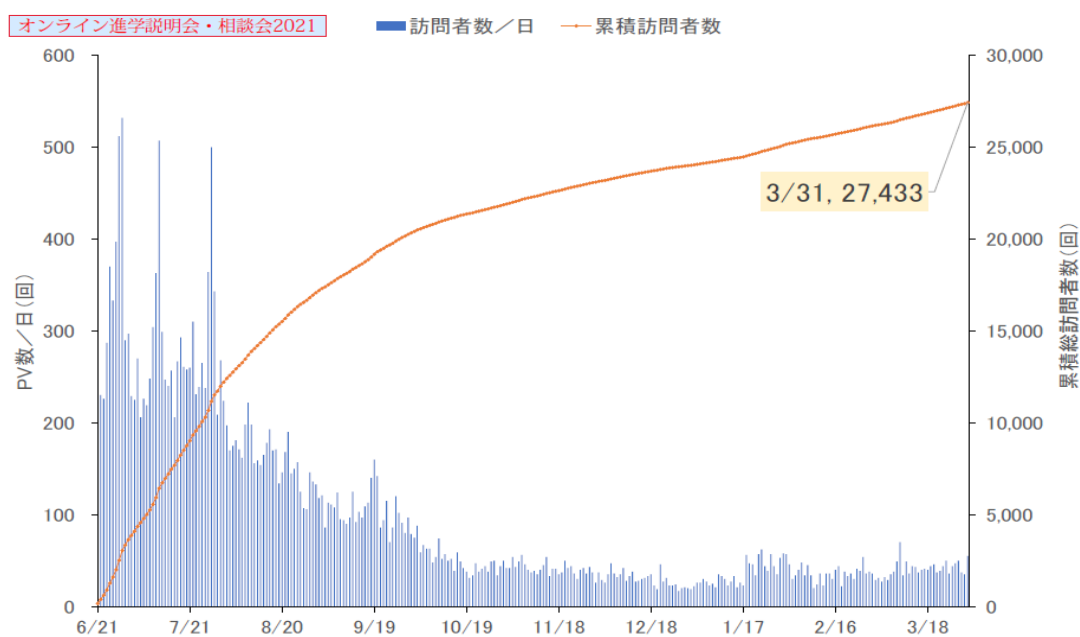
新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に続き全国5会場で進学説明会・相談会の実施を見送り、代替措置として「東北大学進学説明会・相談会サイト」を開設した（期間：6月21日（月）～令和4年3月31日（木）まで）。

企画の具体的内容については、10学部の概要説明、学部長挨拶、学部の資料などのオンデマンドコンテンツを掲載した他、その他のコンテンツは各学部及びその他の参加部局に一任した。

総PV数



総訪問者数



3. 7 高校の要請による講師派遣状況（令和3年度実績）

日付	高校名	参加学部等												その他	オンライン
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農		
4/28	鶴岡南高校											●			★
5/14	山梨学院高校	●													★
5/28	磐城高校											●			★
6/3	仙台向山高校											●			★
6/9	秋田高校		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		★ 対
6/9	遺愛女子高校											●			★
6/19	國學院大學 栃木高校		●				●								★
6/22	秋田南高校		●		●		●					●	●		★
6/23	国分寺高校											●			★
6/25	川和高校											●			★
6/30	城北埼玉高校											●			★
7/1	新潟高校				●							●			★ 対
7/1	一関第一高校											●			★
7/1	本荘高校											●			★
7/8	郡山高校											●			
7/8	甲府東高校											●			
7/9	原町高校											●			
7/10	石橋高校											●			
7/12	千葉高校											●			★
7/16	吉田高校											●			
7/21	長野県上田高校											●			
7/21	甲府南高校											●			
7/26	大館鳳鳴高校											●			
7/29	白石高校											●			
7/30	国際情報高校											●			★
7/30	山形西高校											●			
7/30	真岡高校											●			
8/3	長野県長野高校		●		●										★ 対
8/3	長野県長野高校											●			
8/3	長野県長野高校											●			★
8/3	五所川原高校											●			★
8/6	仙台第三高校											●			★

日付	高校名	参加学部等												その他	オンライン
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農		
8/17	北海道室蘭栄高校											●			★
8/18	横手高校											●			
8/20	山形東高校	●	●		●	●	●	●				●	●		★ 対
8/20	直江津高校											●			★
8/27	仙台二華高校											●			★
9/4	茨城高校	●													
9/7	三本木高校											●			★
9/9	八戸高校		●	●	●	●		●	●			●	●		★
9/15	酒田東高校											●			★
9/15	宮古高校											●			★
9/16	青森東高校								●			●			★
9/16	五所川原高校											●			★
9/16	弘前中央高校											●			★
9/16	五所川原高校				●										★
9/18	長野県屋代高校											●			★
9/21	小松高校											●			★
9/24	藤枝東高校											●			★
9/24	恵泉女子学園高校											●			★
9/28	富山中部高校											●			
10/1	米沢興譲館高校	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●		★ 対
10/4	相模原高校											●			★
10/7	磐城高校			●	●	●	●	●	●			●	●		★ 対
10/8	長岡高校											●			★
10/11	春日部高校											●			
10/13	太田高校											●			★
10/14	盛岡第二高校							●							★
10/16	沼津東高校											●			
10/19	八戸北高校		●					●		●		●			★ 対
10/20	富士高校											●			★
10/21	富岡高校											●			
10/21	函館中部高校	●										●			★

日付	高校名	参加学部等													オンライン	
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農	その他		
10/21	福岡高校		●				●									★ 対
10/21	盛岡第四高校			●												
10/22	前橋女子高校											●				★
10/25	弘前高校			●	●				●			●	●			
10/25	三島北高校											●				
10/26	伊東高校											●				
10/27	橘高校											●				
10/27	四日市高校											●				★
10/27	常盤大学高校		●													★
10/28	青森高校											●				★
10/29	水戸第一高校				●											
10/30	安積高校				●							●	●			★ 対
10/30	長野高校											●				★
11/1	宇都宮女子高校											●				
11/1	広島市立基町高校											●				
11/1	広島市立舟入高校											●				
11/2	竹園高校						●				●	●				★ 対
11/2	沼田高校											●				★
11/2	西武学園文理高校											●				
11/2	仙台青陵中等教育学校											●				
11/2	仙台青陵中等教育学校		●													★
11/4	札幌東高校					●	●									
11/4	札幌東高校											●				
11/4	竹園高校		●													★ 対
11/5	竹園高校				●											★ 対
11/9	北海道札幌旭丘高校											●				
11/9	前橋高校											●				★
11/9	宮城第一高校					●										
11/10	小松川高校	●														★
11/10	花輪高校						●									★
11/10	安積黎明高校											●				
11/12	清水東高校											●				★

日付	高校名	参加学部等													オンライン
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農	その他	
11/12	下妻第一高校											●			
11/13	仙台育英学園高校											●			
11/14	豊岡高校											●			
11/16	膳所高校											●			
11/17	東京都立武蔵 高校											●			
11/17	高崎高校											●			★
11/18	足利高校						●								
11/18	群馬県中央 中等教育学校											●			
11/18	西春高校				●							●			★
11/19	宇都宮東高校											●			★
11/25	船橋高校											●			★
12/1	安積黎明高校						●								
12/1	新潟南高校											●			★
12/2	大宮高校	●													
12/9	焼津中央高校											●			
12/10	宮城第一高校											●			
12/11	蕪山高校											●			
12/13	名古屋市立菊里高 校											●			
12/17	下田高校											●			
12/18	大宮開成高校					●	●								★ 対
12/20	東京都立青山高校											●			★
12/24	秋田北高校						●								★
3/9	星野高校												●		★
3/17	栃木高校						●					●			
3/18	栃木高校					●									★

入:入試センター 文:文学部 教:教育学部 法:法学部 経:経済学部 理:理学部 医:医学部医学科 保:医学部保健学科 歯:歯学部 薬:薬学部

工:工学部 農:農学部

オンライン欄 (★対:対面含む)

3.8 広報活動の成果¹⁾

3.8.1 大学における入試広報活動の重要性

ここ 20～30 年で入試広報²⁾ は日本の大学にとって欠かせない重要な活動となった。1985 (昭和 60) 年の臨時教育審議会第 1 次答申では、偏差値中心の進路選択からの脱却という文脈で、大学入試センターの業務として受験生に対して大学情報を仲介する機能が位置付けられた。すなわち、大学情報の発信は主体的な進路選択を促すための公共的な活動という性格を期待されていた。さらに、大学側の姿勢も受験生への情報提供に対して後ろ向きだと批判されていた。

ところが、1990 年代前半に日本の 18 歳人口はピークに達し、その後は急速に減少へと向かった。一方、大学数と募集人員は相変わらず拡大基調だったことから、入試広報を取り巻く情勢は一変した。大学が行う入試広報活動は、社会貢献というよりも受験生の獲得に向けた PR と位置付けられることになり、各大学が生き残りをかけて必死に取り組むべき活動となった。

3.8.2 東北大学の入試広報活動に対する外部からの評価

本学の入試広報活動は高校からの評価が高いことが知られている。朝日新聞出版の「大学ランキング」の「高校からの評価ランキング」における「広報に熱心な大学³⁾」ランキングでは常に上位に位置してきた (例えば、朝日新聞出版, 2020)。2016 年版で名だたる私立大学を抑えて全国 1 位となり、その後もその立場を維持してきた。本学に対する高評価は偶然の産物ではない。効果的な広報活動を継続するための組織上の工夫とそれを維持するバックボーンとなる調査研究活動が支えとなった結果でもある。

さらに、『大学ランキング 2022 年版』(朝日新聞出版, 2021) では、全国の国公私立大学 768 校の学長・総長を対象としたアンケートの結果、「コロナ禍で優れた対応を行っていると思う大学」ランキングにおいて、東北大学は早稲田大学と並び第 1 位に選ばれている。この結果は、入試広報活動に限った評価ではないものの、コロナ禍においていち早く入試広報活動のオンライン化に取り組み、受験生・高校生やその保護者、そして高校教員に向けて積極的な情報発信を試みたことも、高評価の一因となり得たのではと自負するところである。

3.8.3 新型コロナウイルス感染症の影響による入試広報活動の転換

2020 (令和 2) 年 1 月下旬頃から世界中で新型コロナウイルス感染症 (以下、「COVID-19」と表記する) が猛威を振るっている。COVID-19 の脅威は人々の日常を大きく変えた。東北大学の入試広報活動も大きな転換期を迎えている。

寺下・村松 (2009) は、大学の教育・研究や入試情報等を印刷物やホームページを通じて受験生に伝える広報活動を「発信型広報」、受験生と直接対話する広報活動を「対面型広報」、オープンキャンパス等、学内に受験生を招き入れる広報活動を「学内型広報」と分類した。東北大学が得意としてきた入試広報活動は対面型広報と学内型広報だったが、いずれも「密閉」「密接」「密集」という、COVID-19 の伝染を加速させる「3 密状態」を回避するのは難しい。結果的に 2021 (令和 3) 年度入試に向けた大学入試広報活動は、COVID-19 の蔓延によって著しく制限を受けることとなった。

そこで、急遽、各大学とともに競って取り組んだのが入試広報活動のオンライン化である。

従来の発信型広報が基本的に大学からの一方的な情報提供であったのに対し、一部にテレビ会議システムを通じた双方向のやり取りが含まれることが特徴である。期せずして、従来の枠組にまたがる特徴を有するハイブリッド型の目新しい入試広報活動の黎明期が訪れた。

3.8.4 東北大学における入試広報活動の概要

3.8.4.1 東北大学における入試広報活動組織とその特徴

本学では、全学的な入試広報活動は学部入試関連の委員会で所掌されている。1999（平成 11）年に設置された東北大学アドミッションセンター⁴が中核となり、当該委員会で定めた計画に従って毎年の入試広報活動が展開されてきた。入試広報活動が入試の一環と位置付けられていることから、入試広報の目的が広い意味での学生募集であると明確に意識される組織構造になっている。本学では学部入試設計の一翼を担う活動として公認されていると言えるだろう。

本学では学部入試を教育の一環と捉えている。様々な入試広報活動を通じて、本学第1志望の受験生に対して、一般選抜前期日程試験を目標に据えつつ、そこに至るまでのステップとして「第1志望の受験生のための特別な入試機会」であるAO入試の受験を促している。ひいては、それ以前に各種の入試広報活動を通じて本学の魅力を伝え、その活動に触れることで第1志望の受験生を育成、獲得するというスキームが出来上がっている（倉元, 2011）。入試広報は受験生という特殊なクライアントに対する広報活動であるが、単なる大学広報の一部と認識すると焦点が曖昧になる。入試広報活動を入試の一環として位置づけることのメリットは大きい。

事務組織の面でも全学的な広報を担うセクションとは独立に、当該委員会を所掌する部署として「教育・学生支援部入試課入試広報係」が置かれている。入試広報活動は委員会活動の一環として同係が管轄する。結果的に、受験生とその関係者が必要とする情報発信を機能的かつ効率的に遂行できる体制が整っている。

3.8.4.2 入試広報研究と学内広報の役割

入試広報の難しさは業務が際限なく広がってしまうことにある。学生確保のために惜しげもなく大学の資源を投入する入試広報活動を「全力投球型」とすると、費用対効果を重んじて活動を制御しつつ広報効果を求める入試広報活動は「省エネ型」と位置付けられる。予算や人員、時間が有限である以上、全力投球型の入試広報活動は総体として大学の活動を脅かし、機能不全に陥らせるリスクがある。注目を浴びる時期があっても長期間継続することはできない。本学の入試広報が長期に渡って高評価を受けてきた背景には、組織面の特徴と同時に持続可能な「省エネ型」の広報活動の設計と、大学全体として効率的な入試広報を実施するために欠かせない調査研究活動の存在がある。

東北大学アドミッションセンターおよび後継の入試開発室では、本学の機関研究として広報活動に関する研究成果の発信が断続的に行われてきた（鈴木・夏目・倉元, 2003; 倉元・三原・小野寺・鈴木, 2005; 倉元・山口・川又, 2007; 倉元, 2007, 2008; 倉元・泉, 2014; 久保・南・檉田・宮本, 2021a, b; 久保・宮本, 2021, 2022）。それと同時に必ずしも本学に特化しない、一般的な入試研究としての入試広報研究も行われてきた（倉元, 2005; 倉元・佐藤, 2006; 倉元・泉, 2014）。例えば、鈴木ほか（2003）はオープンキャンパスの黎明期に早

くも進路選択に及ぼす影響について分析し、その有効性を評価している。さらに、倉元ほか（2005）では、一部の対象に集中的に濃密な大学体験を味わわせるイベントは、費用対効果の面で懐疑的な分析結果を出している。また、倉元（2007）では過去10年分の志願者・合格者の入試データを分析し、都道府県単位の地域区分によって効果的な広報活動のスタイルに違いがある可能性を示唆した。倉元・佐藤（2006）は、受験生が好む学部名称が新奇なものよりも伝統的なものであることから、受験生獲得を狙った看板の書き換えが総じて好ましい結果を産まないことを示した。機関研究を中心とした入試広報研究は、効果的な広報計画を立案する上で欠かせない。

一方、広範囲での大規模な入試広報活動の展開には、各学部を中心に多数の教職員や学生の協力が必要である。入試広報の実施が負担を伴うものである以上、実施者側の理解は欠かせない。大学の多忙化、予算縮減の中、一定の資源を割いて入試広報活動への協力を仰ぐには、広報効果の目に見えるフィードバックが必要である。本学の場合、大きな役割を果たしてきたのが2000（平成12）年度入試から20年以上に渡って実施されてきた「新入学者アンケート」の存在である。調査結果から、オープンキャンパスを中心とした各種の入試広報活動の効果について委員会を通じて毎年報告を続けた結果、負担を理由に中核的な入試広報活動に消極的な意見が出ることは稀になってきた。学内に対する調査結果のフィードバックを「学内広報」と呼ぶとすれば、調査研究活動の一環として、効果的な広報活動の継続に向けた学内広報は非常に重要である。

3.8.4.3 本学における入試広報活動の種類

全学の委員会の下に本学主催で組織的に行われている入試広報活動は以下の4種類に整理されている。

1つ目は「高校訪問」である。他の諸活動と比べて個別性が強く、内容は訪問機会によって異なる。主として高等学校の進路指導担当教員との情報交換と生徒に対する東北大学説明会が主な目的である。東北大学アドミッションセンターの設置と同時に1999（平成11）年度から開始された。稀に学部教員を伴う訪問もあるが、主として入試センター教員が担う広報活動である。

2つ目は「入試説明会」である。高等学校の進路指導担当教員を対象とする。東北大学アドミッションセンターの設置の翌年、2000（平成12）年度に開始された。地元の仙台会場を除き、学部からの参加はない。入試センターが実施する広報活動である。

3つ目は「進学説明会・相談会」である。対象は主として受験生、保護者を中心としたものである。2006（平成18）年度に開始された。全学部の協力の他、会場によっては他大学とも協力しながら実施している。

4つ目は「オープンキャンパス」である。本学の入試広報のシンボルとなる活動であり、イベント内容は基本的に各学部に任されている。

その他、外部の機関が主催する入試説明会なども取捨選択しながら参加しているが、ここでは触れない。入試広報活動は通年で行われているが、5月下旬から8月上旬が繁忙期である。主として高校側の事情によるが、専念すべき時期が限定されていることは、費用対効果の観点からは望ましい。

3.8.4.4 本学におけるオンラインを活用した入試広報活動

本学においても、2021（令和3）年度入試に向けた入試広報活動は、COVID-19の感染拡大防止の観点から計画の変更を余儀なくされた。2020（令和2）年4月7日（火）に「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針」（BCP）が制定され、これ以降、本学のあらゆる活動は、BCPに照らして判断されることになった。BCPでは、当初、COVID-19の感染状況を「0」～「5」の6段階（レベル）に分け、現時点では各レベルでの「研究活動」「授業」「出張」「学内会議」「学生の課外活動」「催事・イベント等」「事務体制」についての指針が定められた。

入試広報活動のうち、高校訪問についてはBCPの出張の指針に基づいて判断された。一方、入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパスについては、「3密状態」が不可避であることから、早い段階から中止について検討され始めた。同時に、これらの入試広報が果たしてきた役割の大きさに鑑み、何らかの代替手段を用意することが喫緊の課題となった。その解決策として浮上したのが、オンラインによる実施である。オンラインの活用によって、移動制限のある高校生、受験生、保護者、高校教員に対して進路決定に必要な情報を提供することが期待された。入試説明会および進学説明会・相談会については2020（令和2）年5月の委員会で、オープンキャンパスについては6月の委員会で、オンラインによる実施が決定され、それぞれ名称は「オンライン入試説明会」、「オンライン進学説明会・相談会」、「オンラインオープンキャンパス」となった。

また、全学的には、コロナ危機に続くニューノーマルを見据えた大学改革を加速することを目的に、2020（令和2）年7月29日付で「東北大学ビジョン2030（アップデート版）」が発表され、「コネクテッドユニバーシティ戦略」が策定された（東北大学、2020）。本戦略の「教育の変革」における主要施策の1つに「距離・時間・国・文化等の壁を越えた多様な学生の受入れ推進」が掲げられ、具体策として「オンラインを活用して国内外を対象とする高大接続プログラムやオープンキャンパスを機動的に展開」および「海外ネットワークを利用した戦略的なアドミッションを通して卓越した留学生を獲得」が明示された。かくして、COVID-19の感染拡大防止を目的として企画されたオンラインによる入試広報活動は、同時に、「東北大学ビジョン2030」に掲げられた主要施策実現の嚆矢となった。

2021（令和3）年度に入ってもなお、COVID-19の猛威は衰えることなく、1月7日に首都圏の1都3県で緊急事態宣言が発令されたことに伴い、1月8日にはBCPがレベル2に引き上げられた。さらに、新年度を迎えた4月1日からは、レベル3へと引き上げられることとなった。このような状況下で、2022（令和4）年度入試に向けた2021（令和3）年度の入試広報活動も、引き続きオンラインを中心に実施する方針となった。ただし、2020（令和2）年度に培ったノウハウや、アンケート等を通じて得た参加者の要望をもとに、2021（令和3）年度は、感染防止対策を徹底することを要件に、可能な範囲で対面による広報活動を併せたハイブリッドでの実施を目指した。

以下では、先に挙げた4種類の入試広報活動について、これまでの経緯を概説し、2021（令和3）年度の活動内容とその成果を報告する。

3.8.5 高校訪問

高校訪問は高校教員と円滑なコミュニケーションを結び、本学の入試に理解を深めても

らう貴重な機会となっている。入試広報活動の基本であり、広報計画を設計するうえで大切な活動である。入試センターの高校訪問は単に入試情報や広報資料を高校側に届けることだけが目的ではない。最低授業 1 コマ分程度の時間を割いて、主として進路指導主事を中心とする教員との懇談を行う。その機会に生徒向けの進学説明会や個別相談会といった企画が実施されることも多い。高校訪問は高校関係者と人間関係を構築し、高等学校に人的なネットワークを築いていく貴重な機会である。長年継続していくことによって、高校との信頼関係を醸成していく効果が期待される。入試を中心とした本学の教育の安定した基盤づくりに寄与するものである。

図 1 は 1999 (平成 11) ～2021 (令和 3) 年度に入試センターで行った高校訪問件数である。件数としてはアドミッションセンター時代の 2003 (平成 15) 年度に最初のピークを迎えた。年度途中で「平成 15 年度教育共同プロジェクト (総長裁量経費) 新学習指導要領の下での高等学校のカリキュラムに関する実施調査」が採択され、一部経費を高校個別訪問による実地調査に活用したことによる。経費は中部地方、関西・山陰地方、沖縄地方といった、それ以前はあまり訪問機会がなかった地域の高校の訪問に充てられた。

その後、件数としてはやや落ち込んだが、2011 (平成 23) 年度には 3 月に発生した東日本大震災による本学志願への悪影響を懸念して措置された予算に基づく訪問活動が年度後半に行われた。緊急対応的な意味が強く、通常の年度の活動とは性格をやや異にしている。2015 (平成 27) 年度まで入試センターは専任教員 3 名という限られた人員であり、再び件数の上では低迷していたが、2016 (平成 28) 年度に新たなスタッフが加わったことで、高校訪問活動が再び活性化した。2019 (令和元) 年度には、過去の高校訪問記録をデータベース化し、訪問計画の策定と訪問の際の資料の準備を効率化する体制が整った (樫田, 2021)。

2021 (令和 3) 年度における高校訪問は、昨年度に引き続き BCP レベルに従って行われた。出張への制限が課されていた期間が長かったことから、東北地方の高校を中心とした 5 校のみの訪問に留まった。

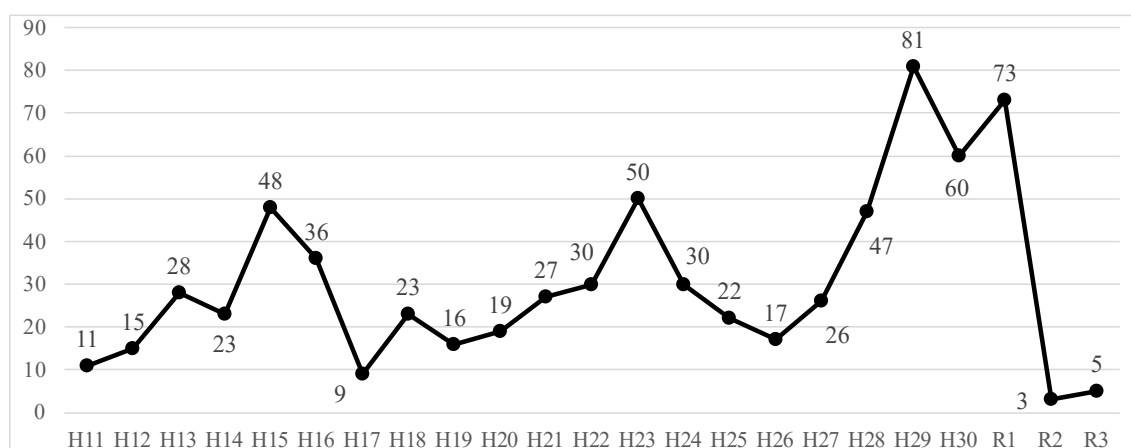


図 1. 個別高校訪問件数

3.8.6 入試説明会

3.8.6.1 入試説明会の経緯とこれまでの実施概要

当初は前年から始められたAO入試に関する情報を従前から行われていた推薦入学⁵⁾とともに幅広く届ける目的で始められた。当初から主として進路指導担当教員を対象とした企画として構想されていたものの、そのコンセプトが固まるまでには試行錯誤があった。現在は受験生、保護者を対象とするイベントは「進学説明会・相談会」と呼んで区別されている。

仙台会場については2007（平成19）年度から分科会方式を採用して学部教員による当該学部の入試紹介の機会と位置付けた。それ以外の会場を入試センター教員が担当し、現在に至っている。

入試説明会は、当初、東北大学型の「学力重視のAO入試」を広くアピールする機会と位置付けられたが、現在は本学の学部入試全体の考え方を説明する機会として活用されている。同時にその時点で起こっている入試関係の問題状況について来場した高校教員と意見交換をする場としても活用されている。高校訪問や長期にわたる関係性構築のきっかけとなる場合もある。

表1. 入試説明会会場及び参加教員数

開催都市	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
札幌	—	24	12	14	20	19	16	14	16	16	22	17	18	21	22	26	13	22
青森	28	22	20	24	29	29	18	27	23	18	18	14	13	13	9	—	7	10
弘前	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—	—
盛岡	31	29	35	31	19	23	22	14	13	30	23	14	8	15	16	14	23	22
仙台	42	41	39	43	48	86	155	207	189	178	199	214	227	223	220	209	204	232
秋田	15	15	8	13	11	16	11	13	15	18	13	12	11	13	11	16	18	21
山形	21	20	16	22	22	23	—	—	—	—	—	—	—	7	3	17	7	11
郡山	49	22	22	27	20	10	—	—	—	—	—	—	—	37	5	28	16	12
水戸	16	—	11	16	20	23	19	17	21	25	19	17	19	19	20	21	15	17
土浦	—	<u>15</u>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宇都宮	—	<u>23</u>	21	24	26	17	20	22	21	21	17	15	17	16	24	17	17	24
高崎	—	<u>14</u>	13	16	18	19	17	17	21	19	18	18	18	19	22	29	19	27
さいたま	—	—	—	—	16	13	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京	—	—	—	—	—	—	—	36	39	25	33	34	42	48	49	47	33	49
新潟	9	11	14	19	23	15	21	27	23	22	22	18	20	22	21	20	29	20
金沢	—	20	21	10	10	11	10	8	5	7	4	5	10	4	8	9	9	6
甲府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	6	9	7	7	8	9	9
長野	10	—	7	12	8	9	10	12	16	11	11	13	12	11	11	12	15	13
松本	—	<u>11</u>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡	16	15	17	15	13	15	14	11	16	11	11	10	12	16	13	14	10	9
名古屋	22	—	—	—	—	—	17	16	11	12	7	8	7	8	14	14	8	16
大阪	27	—	—	—	—	7	10	15	9	9	14	11	16	12	14	16	17	19
松江	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山	—	—	—	—	—	—	9	10	8	8	7	7	8	10	4	6	6	8
広島	—	—	—	—	—	—	—	—	10	6	6	3	13	5	5	7	5	4
福岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	6	6
那覇	—	—	7	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	286	<u>282</u>	263	291	303	335	379	467	456	436	451	436	480	526	498	552	486	557

注: 2003（平成15）年度は一部の記録が残っておらず、下線（イタリック）の会場は参加予定数

来場する高校教員のキャリアや知識レベルは様々である。公立高校の教員であれば、転勤による入れ替わりや校務分掌の交代がある。日程によっては参加人員のやりくりも必要となる。高校側には新人研修として活用してもらうことも勧めている。説明側も経験の浅い教員でも十分に内容が理解できるように、基本的な事項から分かりやすく伝えることを心がけている。

2002（平成14）年度以降は、会場と会場ごとの参加者数の記録が残っている。開催都市にはそれぞれ特徴がある。仙台会場は2007（平成19）年度に全国唯一の学部ごとの説明会場と位置付けられてから、急激に参加者数が伸びた。地元の宮城県のみならず、近県を中心に一校当たり複数の教員で参加して、同時並行で行われている各学部のセッションから情報を得ようとする傾向がみられる。仙台会場以外では、固定されている会場と実験的に設けられた会場、一度中断して再開された会場がある。参加者数が伸び悩む会場もあるが、以前よりは実際に志願者を輩出する参加校から教員が参加する傾向が見られる。むしろ、説明会の内容が徐々に洗練され、充実してきていることが感じられる。

3.8.6.2 2021（令和3）年度における入試説明会の実施結果とその評価

2021（令和3）年度は、入試センター教員が担当する説明会はオンラインで実施し、学部の教員と協働して行う仙台会場のみは対面で実施された。「令和3年度東北大学入試説明会仙台会場」は、6月29日（火）に、仙台国際センターで開催された。入試センター教員および、東北大学の10の学部（医学部は医学科、保健学科別）、さらには現代的リベラルアーツ、キャリア支援、特別支援の教員を加えた計15名の教員による説明会と、個別相談が行われた。COVID-19の感染拡大防止のため、各部屋の収容人数の5割となるよう定員を制限し、事前の参加申込みを必須とした。参加者は、東北地方を中心に総計57校・142名であった。なお、仙台会場における説明会は全て当日に収録を行い、オンデマンド形式で視聴できるようYouTubeで動画が公開された。

一方で、入試センター教員が担当する説明会は、オンライン入試説明会として実施された。オンライン入試説明会は、ビデオ会議システム（Zoomミーティング）を利用したリアルタイム型の説明会である。従来の対面での入試説明会は、当該年度の「東北大学入学者選抜要項」の公表時期に合わせて開催されてきた。「令和4年度東北大学入学者選抜要項」は、2021（令和3）年6月10日に「暫定版」が公表された。COVID-19への対応により、試験日程や実施方法に変更が生じる可能性があったことから、この時点では、入学者選抜日程の概要の一部を「調整中」と記載していた。このような状況であったが、昨年度と同様に、高校教員に対して少しでも早く入試情報を届け、直接的な対話を通して教員や生徒の不安を軽減することを優先し、6月14日（月）から24日（木）（土日を除く）の日程で、オンライン入試説明会が実施された。申込み開始は5月24日（月）であった。

1回の説明会を「セッション」と呼び、昨年度と同様、1セッション60分、各セッションの定員は20名とした。ただし、2020（令和2）年度の実施結果を踏まえ、実施仕様についていくつかの変更を加えた。主な変更点は、実施時間帯の見直し・変更を行い実施回数を大幅に減らした点、参加者の勤務校が所在する地域によって申込み可能な説明会を限定していたブロック区分を廃止し、全てのセッションを地域フリーとした点である。

2021（令和3）年度6月および2020（令和2）年度のオンライン入試説明会の申込み・

参加状況を表 2 に示した。2021 (令和 3) 年度は 147 校から 174 名の参加があり、2020 (令和 2) 年度から半分以下にセッション数を減らしたことを考慮すると、参加者数、参加校数ともに十分な数を維持しており、より少ないセッション数でより効率的な運営ができたと言える。2021 (令和 3) 年度のオンライン入試説明会における申込者数上位の都道府県は、東京都 (24 名)、茨城県 (16 名)、宮城県 (15 名)、秋田県、新潟県 (各 14 名)、埼玉県 (12 名)、北海道、青森県、福島県、群馬県 (各 11 名) であった。

表 2. 令和 3 年度及び 2 年度のオンライン入試説明会への申込み・参加者数

	予定回数	実施回数	申込者数	参加者数	参加率	参加校数
R3	18	18	216	174	80.6%	147
R2	41	39	273	226	82.8%	194

オンライン入試説明会の参加者には、昨年度と同じ項目内容で、実施時期や曜日・時間の適切性、説明のプレゼンテーションのわかりやすさ等を尋ねる事後アンケートを実施した。アンケートへの回答者数は 106 名 (回収率 60.9%) であった。昨年度の時点で、いずれの項目に対しても肯定的な回答が概ね 9 割を超えていたが、2021 (令和 3) 年度はさらに高い評価が得られた。特に、実施時期に関しては「ちょうど良い」という回答が 100%となった。昨年度は、COVID-19 への対応により 7 月中旬からの開始となったが、今年度は 2019 (令和元) 年度までとほぼ同様の日程に戻すことができたことが要因であると考えられる。自由記述項目では、多くのセッションが用意されていたことで、特段予定の変更をする必要がなく参加しやすかったという主旨のコメントが複数見られた。時間帯の選択肢を設け、計 9 日間にわたり 18 回のセッションを設定したことが支持される結果となった。

その後、7 月 5 日に国立大学協会より『国立大学の 2022 年度入学者選抜についての実施要領』の改訂について (通知) が発出された。これに基づき、入学者選抜日程が再検討され、「調整中」であった日程が確定し、7 月 30 日にはその結果を反映した「令和 4 年度東北大学入学者選抜要項」が公表された。これを受け、8 月 27 日 (金) に「オンライン入試説明会 (内容確定版)」を実施することとし、7 月 20 日 (火) には申込み受付を開始した。オンライン入試説明会 (内容確定版) では、6 月時点で既に公表されていた事項の解説は最小限に抑え、新たに確定した内容を中心に説明することとし、1 セッションの時間を 45 分 (質疑応答含む) に短縮して 2 セッション実施した。定員は各セッション 500 名とし、説明会は Zoom ウェビナーで行われた。

東北地方と関東地方を中心に、北海道から沖縄まで 22 都道府県から 71 名の申込みがあり、参加者数はセッション①が 17 名 (17 校)、セッション②が 38 名 (38 校) であった。オンライン入試説明会 (内容確定版) においても、参加者に対して簡単な事後アンケートを実施し、53 名から回答が得られた (回収率 96.4%)。アンケートの結果から、内容確定版への参加者のおよそ半数は、6 月に実施したオンライン入試説明会には参加していなかったことがわかった。回答者全員が今回の説明会に参加してよかったと回答しており、参加者の満足度が非常に高かったことから、入学者選抜要項の確定に合わせ、追加でオンライン入試説明会 (内容確定版) を実施したことの意義が認められた。

3.8.7 進学説明会・相談会

3.8.7.1 進学説明会・相談会の経緯と他大学との連携

東北大学進学説明会・相談会⁶⁾は2006(平成18)年度からの東京会場を皮切りに2007(平成19)年度から大阪, 2010(平成22)年度から札幌, 2016(平成28)年度から静岡, 2018(平成30)年度から福岡と広がり, 2019(平成31)年度から仙台会場が開始された。開催都市は仙台を除き, 倉元(2007)で高校訪問による効果的な入試広報が難しいとされた「シティ」に属する都道府県である。東京会場と仙台会場は当初から本学単独開催の構想で始まったが, 他の会場は他大学との共催が模索されてきた。大阪会場は当初は単独開催であったが2年度目から他大学と共催となった。共催方式を採ったことで参加者数が大幅に増え, 会場が維持できたという経緯がある。札幌会場と静岡会場は当初から他大学との共催である。共催大学を表3に示す。2018(平成30)年度開始の福岡会場⁷⁾は単独開催として始まっているが, 他大学との共催を目指している。

表3. 進学説明会・相談会共催大学

	大阪会場	札幌会場	静岡会場
H20	北大, 筑波大, 九大	—	—
H21	筑波大, 九大	—	—
H22	筑波大, 九大	筑波大	—
H23	筑波大, 九大	新潟大, 筑波大	—
H24	筑波大	新潟大, 筑波大	—
H25	筑波大, 九大	新潟大, 筑波大	—
H26	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—
H27	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—
H28	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大
H29	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大
H30	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大
R1	筑波大	筑波大, 宮教大, 新潟大, 金沢大	筑波大, 山形大, 福島大, 新潟大

共催問題が生じるのは, 本学の訴求力の問題である。仙台と東京を除く多くの都市では単独開催とした場合の参加者数に不安が残る。受験生の立場から見て類似した大学との共同イベントとすることで参加者数の向上が期待される。2019(令和元)年度からは, 担当者一人でも参加可能な形態で多数の共催大学を募る方式を開始した。その矢先にCOVID-19に見舞われ, 2020(令和2)年度及び2021(令和3)年度の計画は全て中止となった。参加者数, 来場者数の変遷は図2の通りである。折れ線グラフ(人数は左側の軸)で表示した「延べ参加者数」は本学関連イベントに参加した者のみカウントしている。棒グラフ(右側の軸)の「来場者数」には他大学関連イベントのみに参加した者も含まれる。

2011(平成23)年度には東日本大震災の影響を受け, 東京会場で急激な参加者数の減少が見られたが, その後, 回復してさらに拡大基調となっていた。

実際には東京と札幌の参加者の動向は異なっている。東京には様々な高校から参加者が集まっているのに対し, 札幌は参加者の所属校が限られているが, 本学への志願者数が多い高校を中心に集まっており, マッチングの状況が良い。一方, 大阪は参加者数, マッチングともに芳しくなく, 静岡はマッチングの状況が年々悪くなっている。福岡, 仙台は開始した

ばかりなので、まだ定量的な分析はなされていない。今後、会場の見直しがあるとすれば、参考になる指標と思われる。

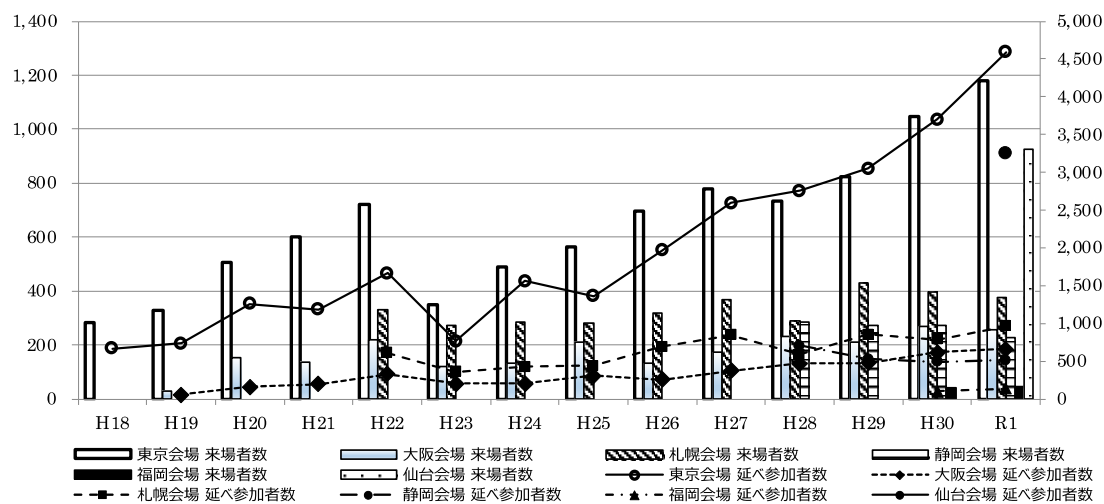


図 2. 進学説明会・相談会参加者数

3.8.7.2 2021（令和3）年度における進学説明会・相談会の実施結果とその評価

進学説明会・相談会をオンラインで代替するに当たって、「東北大学オンライン進学説明会・相談会」の特設ウェブサイトを作成し、「説明会」の部分はオンデマンド型コンテンツとして展開した。一方で、「相談会」の部分は、オンラインで参加するリアルタイム型イベントとして実施した。

東北大学オンライン進学説明会・相談会のウェブサイトは、基本的に昨年度までの仕様を踏襲した上で、コンテンツの更新を行った。2021（令和3）年6月21日のサイトオープンから2022（令和4）年3月31日までの延べページビュー（PV）数は72,618、延べ訪問者数は27,433であった。昨年度の延べPV数153,162、延べ訪問者数52,077と比較すると、いずれも約半数に激減した。

2021（令和3）年度の東北大学オンライン進学相談会は、外部の専門業者であるフロムページが主催する「夢ナビライブ」のオンラインセミナーの日程に合わせて、7月と10月に2日間ずつ実施した。実施概要は表4に示した通りである。7月の相談会では、1回の定員を最大5名に設定したが、申込者が定員上限に達した回が複数あり、人数の多かった回では参加者、実施者の双方から時間が足りなかったという意見が出たため、10月には定員を1名に変更し、1対1の完全個別相談とした。

表 4. 令和3年度東北大学オンライン進学相談会の実施概要

	7月相談会	10月相談会
開催日時	2021年7月10日(土)・11日(日) 14:00～16:55	2021年10月2日(土)・3日(日) 14:00～16:55
時間・定員	1回15分・定員5名	1回15分・定員1名
実施回数	各日27(3名×9)回	

7月は申込者数44名、参加者数36名、10月は申込者数23名、参加者数22名であった。7月と10月の申込者を合わせて地域別に集計すると、東北地方が43.3%、関東地方が29.9%、中部・北陸地方が13.4%、近畿地方が4.5%、中国・四国地方が6.0%、九州・沖縄地方が3.0%であり、北海道からの参加はなかった。

参加者に対して事後アンケートへの協力を求めたところ、7月の相談会では35名、10月の相談会では10名から回答を得た。アンケートの結果から、PCやタブレットよりもスマートフォンを使用している参加者が多いことが明らかとなった。7月の相談会では、各回5名の定員が満員となったのが2回、4名入った回が1回、3名入った回が1回あり、1回15分という時間の適切さについて6名が「短い」と回答していたが、10月には定員を1回1名に変更したことで、全ての回答が「ちょうど良い」となった。「相談会では求める情報が得られましたか？」という質問に対しては、7月に「得られなかった」を選択した回答者が1名いた他は、全て「得られた」という回答であった。「得られなかった」を選択した回答者は、相談時間が短いと回答していたことから、複数人の参加があった回で、相談したかった事柄に対して十分に時間を割いてもらえなかったと感じたことで、不満を抱いたものと推察される。「相談会に参加して、東北大学への志望が強くなりましたか？」という質問への回答は、7月の参加者のうち4名が「変わらない」を選択していたほかは全て「強くなった」を選択していた。

以上より、2021（令和3）年度のオンライン進学相談会については、申込者・参加者の絶対数は少なかったものの、東北地方と関東地方を中心に広域からの申込みがあり、参加者からは概ね高い評価が得られていた。実施者の実感として、具体化された質問が多かったことから、参加者は動機が明確で、相談意欲の高い高校生（既卒生含む）ばかりであったように思う。

なお、東北大学オンライン進学説明会・相談会の特設ウェブサイトは、上述の通り、2020（令和2）年度からPV数、訪問者数が大きく減少したこと、また、「新入学者アンケート」の結果から志望決定への決め手に欠けることや、オンラインオープンキャンパスとコンテンツが重複していることから、2022（令和4）年度にはオンラインオープンキャンパスと統合することとなった。一方、オンライン進学相談会については、2022（令和4）年度も継続して実施する方針である。

3.8.8 オープンキャンパス

3.8.8.1 オープンキャンパスの誕生と成長

東北大学オープンキャンパスは、1982（昭和57）年に工学部の金属系3学科が学科公開を行ったのが起源と考えられている。1995（平成7）年には、工学部の全学科（17学科）が参加して公開行事が行われ、その後、青葉山キャンパスに位置する理学部、薬学部が追随した。高校側の希望と学内からの要請もあり、1998（平成10）年には全学で説明会や公開授業が行われた（東北大学百年史編集委員会、2009: 402）。さらに、その翌年、1999（平成11）年度より「東北大学オープンキャンパス」として全学部が参加する全学的イベントとなった。

開催日は当初から7月末の平日2日間である。開催日決定規則が明確に定められていることから、数年後まで自動的に決まっている。イベント開催部局の予定を立てやすくし、参

加を希望する高等学校等への周知を容易にするためには重要な条件と言える。

図3に示すようにオープンキャンパスの規模は年々拡大している。参加者数は当初の10倍以上の規模に達し、2018（平成30）年度には、当該年度に実施されたオープンキャンパスの中で全国一となった（朝日新聞出版，2020: 369）。2019年度（令和元）には、さらに参加者数を伸ばし、本学過去最高の68,403名を記録した。実際には正確な参加者数の把握は困難だが、近年は1人の参加者につき2日間の開催日を通じて全学の資料を1つのトートバッグで収めて渡すことでカウントしている。中にはルールに違反して複数のバッグを受け取る参加者もいるだろうが、家族連れなど複数で参加する場合には1人が代表して受け取る場合もある。工学部や理学部は、広大なキャンパスに分散して学科受付を設けている。相当数が学科受付に行くが、総合案内を通らなければ数え落としとなる。著しい過大推定にはなっていないと思われる。

本学のオープンキャンパスは完全自由参加制で、事前登録や人数制限を加えてこなかったことが特徴であり⁸⁾、規模拡大を可能にした秘訣である。開催内容は学部主導で決まるので、学部、学科ごとに知恵を凝らした工夫がみられる。結果的に参加者は受験生以外にも広がり、多様な層が参加を楽しみにする祭のような雰囲気のイベントとなっている（河本，2009: 182-184）。

オープンキャンパスの実施負担は膨大であり、当然ながら、日常の研究・教育活動に支障が出ると不満が生まれるのは当然である。それがここまでの規模になってきたのは、それだけの負担を負っても実施するかいがあることを示すエビデンスが存在するからである。

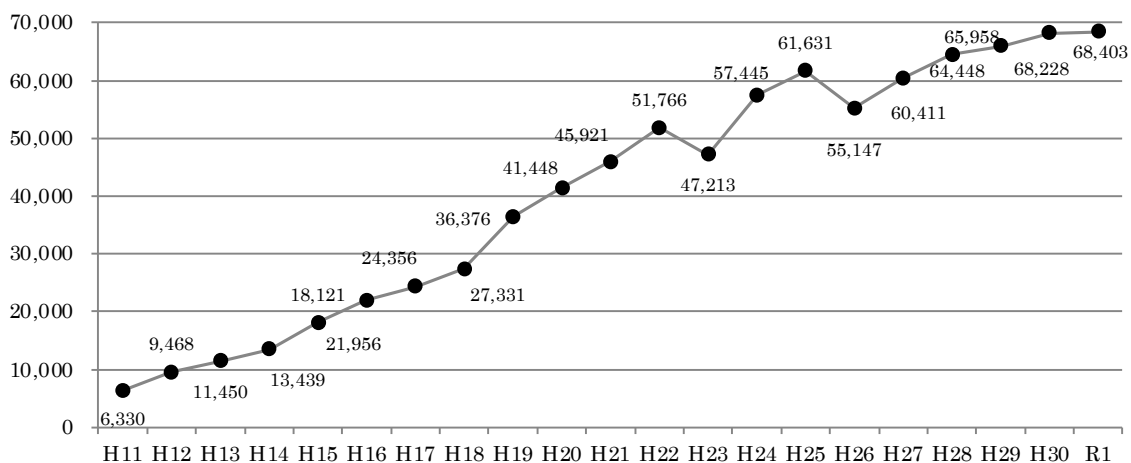


図3. オープンキャンパス参加者数の変遷

3.8.8.2 コロナ禍での対面オープンキャンパスへの挑戦⁹⁾

前述した他の入試広報活動と同様、COVID-19の感染拡大防止のため、昨年度に引き続きオープンキャンパスもまたオンラインにより実施された。入試広報活動のオンラインでの代替は、対面には無いさまざまな利点を示すことになったが、一方では、オンラインでは伝えきれないものを強く認識させることにもなった。東北大学においては、その最たるものが、従来のオープンキャンパスが有する「真正性」であった。すなわち、実際に大学を訪れることでしか得られない実感や体験、進路決定に及ぼす影響力であった。こうした認識を背

景に、加えて、学内外からの再開を望む声が後押しとなって、2021（令和3）年度は対面オープンキャンパスの実施が企図された。最終的には COVID-19 の第5波と時期が重なって中止に至ったが、その経緯を記録として残すことにも意義はあろう。

対面オープンキャンパス開催に向けて取り組んだ期間は、表5に示す通り、3月24日の広報拡大ワーキンググループ（以下、WG）¹⁰による実施計画の策定開始から、8月18日の中止発表までの約5カ月であった。この期間は、さらに、計画（3月下旬～6月初旬）、初動（6月中下旬）、調整・中止（7月～8月中旬）の3つの局面に分けられる。以下、各局面に沿って概略を述べる。

（1）計画（3月下旬～6月初旬） この時期は、対面オープンキャンパスの実施計画の策定を精力的に進めた。先述の通り、コロナ禍前までの東北大学の対面オープンキャンパスは、大学全体が総力を挙げて取り組み、来場者数が7万人に迫る国内最大規模のイベントであった。しかし、今回は「3密」を回避するために、実施規模、プログラム編成、参加方法など諸々の制限をかけなければならなかった。また、全国的な感染状況の悪化に備えて、別日程の確保や延期・中止の判断基準なども決めておく必要もあった。これらについてWGで検討し、決定された方針の詳細と、プログラムの内容構成上の留意点や、当日の運営に関わる留意点について「実施マニュアル」としてまとめ、各学部に配布した。それに基づき各学部は対面オープンキャンパスのプログラムを作成した。最終的に、開催期間中に各学部が実施するプログラムの総数は145本、総定員は4,029名となった。

表5. 2021（令和3）年度対面オープンキャンパス中止までの経緯

局面	月日	事項
計画	3月24日～6月8日	WG第1回～5回：対面OC実施計画の策定
	6月4日	実施マニュアルの作成、配布
	6月10日	対面OC開催発表
	6月17日	WG第6回：予約期間決定
初動	6月21日	予約サイトオープン
	6月28日	第1期予約開始（～7月4日） サーバダウン
調整・中止	7月9日	9月に開催延期、第2期予約中止の発表
	7月11日～26日	第2期予約期間 ※延期
	7月14日、28日	WG第7回、8回：第2日程用に変更された実施計画の修正、 第2日程中止の場合の代替案策定
	7月28日、29日	開催 ※延期
	8月6日	対面OC（第2日程）開催発表
	8月18日	対面OC（第2日程）中止発表
	9月8日～	第2期予約期間（第2日程） ※中止
9月18日、19日	開催（第2日程、第7回WGにて9月19日、20日 に変更） ※中止	

注）網掛け部分は予定されていたが延期・中止となった事項

（2）初動（6月中下旬） 各学部のプログラムが出そろい、その情報が予約システム（株

式会社フロムページの OCANs) に実装された。計画通り、本学を第 1 志望とする高校生・受験生を対象に第 1 期予約を開始した。しかし、その初日にアクシデントが発生した。OCANs へと誘導する対面オープンキャンパスのウェブページを担うサーバが、アクセス集中に耐えきれずダウンしてしまったのである。即座に応急措置として、東北大学のトップページや SNS を通じて OCANs への直接リンク情報を周知した。第 1 期予約に割り当てられた定員は満たされたが、OCANs への直接リンク情報を知り得なかった高校生・受験生、さらには、彼らの保護者や通う高校の教員には不公平感を残すことになった。また、学内からも多くの批判を受けた。学内外に対するお詫び、改善策の策定を矢継ぎ早に行った。

(3) 調整・中止 (7 月～8 月中旬) 7 月 11 日から予定していた第 2 期予約に際しては、サーバのスペック強化等、万全の体制で臨んだ。しかし、その直前になって、本学の新型コロナウイルス感染症対策班会議において対面オープンキャンパスの 7 月開催は困難との判断がなされた。それを受け、9 月の第 2 日程に延期することになった。延期に伴い、開催までの作業スケジュールの再設定と各学部のプログラム構成の再検討がなされた。各学部の尽力により、ほとんどのプログラムは変更なく第 2 日程において実施することとなった。また、第 1 期予約完了者の扱いをどうするかも議論となった。白紙に戻して第 2 日程の予約は最初からやり直すという意見もあったが、議論の末、第 2 日程の第 1 期予約完了者としてそのまま移行することとなった。さらには、第 2 日程での開催が中止となった場合の代替措置についても検討した。その結果、第 2 日程～9 月末までの間にオンラインオープンキャンパスにおいて、集中的にライブイベント (リアルタイム型の模擬授業、研究室紹介、相談会等) を実施することとした。このように第 2 日程での開催に向けて準備を進めたが、第 5 波がピークにさしかかろうとする状況の中、新型コロナウイルス感染症対策班会議では、BCP レベル 3 への引き上げと対面オープンキャンパスの中止が決定された。かくして、対面オープンキャンパス開催への挑戦は終焉を迎えることとなった。なお、代替のライブイベントとして 33 のイベントが実施され、総計 852 名の方々に参加いただいた。

3.8.8.3 2021 (令和 3) 年度におけるオンラインオープンキャンパスの実施とその評価

オンラインオープンキャンパスの基本的な構成は、入試センターが運営する特設ウェブサイトと、各部局が運営する専用ウェブサイトから成る。入試センターの特設ウェブサイトでは、各部局の専用ウェブサイトへの誘導と全学的なコンテンツを掲載する。また、各部局の専用ウェブサイトは、各部局の自由裁量で運営し、研究紹介、模擬講義、施設公開、キャンパスツアー等についてのオンデマンド型及びリアルタイム型のコンテンツを掲載・発信する。その際、各部局には、独自のウェブサイトを立ち上げる方式と、入試センターが用意した共通デザインのプラットフォームを利用する方式のいずれかを選択できるようにしている。

以上の実施方針や基本的仕様は昨年度と同様に、特設ウェブサイトのデザイン変更及び、各部局のコンテンツの更新を行い、2021 (令和 3) 年 6 月 21 日より「東北大学オンラインオープンキャンパス 2021」のサイトを公開した。公開日から 2021 (令和 3) 年 3 月 31 日までのオンラインオープンキャンパスサイトの延べ PV 数は 498,858、延べ訪問者数は 158,256 であった。対面オープンキャンパス中止の代替措置として 9 月にライブイベントを多数実施したことが、昨年度に比較して PV 数、訪問者数を大きく伸ばした 1 つの要因で

あると考えられる。

以下では「新入学者アンケート」¹¹⁾の結果をもとに、オンラインオープンキャンパスの効果について検討する。本アンケートの内容は、主として入試区分に関する項目と入試広報に関する項目から成っており、初年度から調査目的に大きな変化はない。オープンキャンパスの参加状況については2回目(2001(平成13)年度入学者対象)から同一内容で質問していたが、2021(令和3)年度及び2022(令和4)年度入学者を対象とした調査票では、オープンキャンパス及び進学説明会・相談会の対面での実施が中止となり、オンラインで実施されたことから、広報活動に関する項目について適宜修正を加えた。

2022(令和4)年度入学者を対象とした新入学者アンケートの回収率は98.9%であった。2022(令和4)年度入学者(回答者)のうち、直近2年間でオンラインオープンキャンパスを閲覧した者の割合は37.5%であった。図4には、2018(平成30)年以降の新入学者について、前年度のオープンキャンパスに参加、あるいは閲覧した者の割合を地域別に示した。なお、2019(令和元)年度入学生で、初めて東北からの入学者数を関東からの入学者数が上回った(東北34.5%、関東37.7%)ものの、その後、両者の差は最大でも約5%程度に落ち着いており、2018(平成30)年度以降、入学者の出身地域の分布に大きな変動はない。2020(令和2)年度入学者までは対面オープンキャンパスへの参加者、2021(令和3)年度および2022(令和4)年度はオンラインオープンキャンパスの閲覧者の割合である。対面実施のときからオープンキャンパスへの参加者数、本学への志願者・入学者が共に多い東北地方や関東地方では、オンラインオープンキャンパスとなっても、大きな変化は見られなかった。一方で、オンラインでの実施となって以降、近畿地方の割合は増加し、四国、九州、海外からは入学者数の実数は小さいものの、閲覧者の割合の増加傾向が続いている。オープンキャンパスのオンラインでの実施は、地理的な条件により、対面でのオープンキャンパスへの参加が難しい地域の志願者に対しては有効である可能性が示され、入試広報活動の広域化という観点では一定の効果が認められる。

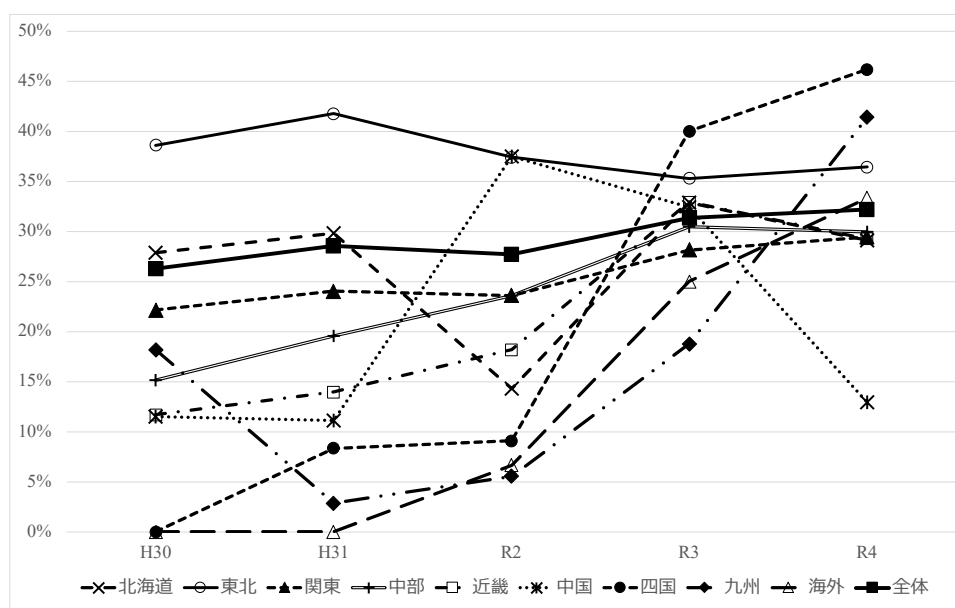


図4. オープンキャンパスに参加(閲覧)した新入学者の割合に関する地域別比較

2022（令和4）年度新入学者における、本学オープンキャンパスの経験については、①オンラインオープンキャンパスと対面オープンキャンパスの両方を経験、②オンラインオープンキャンパスのみ経験、③対面オープンキャンパスのみ経験、④いずれも経験していない、の4パターンに分類される。①～④の分布を表6に示した。全体では、オンラインオープンキャンパスと対面オープンキャンパスの両方を経験した者が14.0%、オンラインオープンキャンパスのみ経験した者が23.4%、対面オープンキャンパスのみ経験した者が21.6%、いずれも経験せずに入学者が40.9%となった。新入学者の約6割がオンライン、対面のいずれかでオープンキャンパスを経験しており、オンラインオープンキャンパス開始以前の2020（令和2）年度新入学者では、半数以上がオープンキャンパスを経験していたことに照らしても、大きな減少は見られなかった。

表6. オープンキャンパス参加経験4パターンの度数分布

	両方	オンラインのみ	対面のみ	経験なし	合計
全体	339 (14.0%)	566 (23.4%)	523 (21.6%)	988 (40.9%)	2416
男性	184 (10.5%)	388 (22.2%)	384 (22.0%)	792 (45.3%)	1748
女性	154 (23.2%)	176 (26.5%)	139 (20.9%)	195 (29.4%)	664

表6には、男女別の分布も合わせて示した。男性では両方経験した者がわずかに1割程度であり、いずれも経験していない者が約45%に上ったのに対し、女性では、両方参加している者が約23%、いずれも経験していない者は約3割という結果となった。男女の違いを確認するため、性別×経験パターンの2×4のクロス集計表について、独立性のカイ2乗検定を実行した。検定の結果、 $\chi^2(3)=89.04, p<.001$ となり、有意となった。残差分析の結果から、男性では女性に比較して④いずれも経験していない者が有意に多く（ $p<.001$ ）、女性では男性に比較して①両方経験している者、②オンラインのみ経験している者が有意に多い（それぞれ $p<.001, .05$ ）傾向が示された。直近2年間がオンラインでの実施であったことを考慮すると、男性よりも女性の方がオンラインとなっても本学のオープンキャンパスに強い関心を維持し、オンラインオープンキャンパスを通して積極的に情報を収集しようとする姿勢が強かった可能性が示唆された。

入学以前におけるオンラインオープンキャンパス、あるいは対面オープンキャンパスへの参加・閲覧が、入学した学部（学科）への志望決定にどの程度意味があったかを尋ねた項目への回答を表7に示した。オンラインオープンキャンパス経験者、対面オープンキャンパス経験者のそれぞれで、「決め手となった」と「参考になった」の合計は約76%となった。ただし、オープンキャンパスが対面のみで実施されていた当時は「決め手になった」という回答のみで3～4割程度を占めていたことから、2年間オンラインにより実施されたことで、志望決定へ影響力が減衰していると考えられる。さらに注目すべきは、参加から年数を経ているにもかかわらず、対面の方がオンラインよりも「決め手となった」と感じられている点である。対面オープンキャンパスが有する「真正性」が進路決定に対して非常に強い影響力

を持つことを裏付ける結果となった。

表 7. オープンキャンパスへの参加・閲覧が志望決定に与えた影響（参加者比）

OC 種別	決め手となった	参考になった	あまり関係 なかった	全く無関係	無回答
オンライン(n=907)	7.2%	68.7%	16.6%	5.5%	2.0%
対面(n=863)	17.6%	58.2%	17.7%	6.4%	0.1%

3.8.9 まとめ

入試広報活動のあり方は、COVID-19の出現で一気に大きな変化を遂げることとなった。オンライン化の趨勢は今後も変わらないだろう。その一方で、オンライン授業等の経験から、キャンパスで行われる各種の大学の営みの重要性も見直されつつある。入試広報活動においても、従来からの対面型、学内型の活動と、刻々と進化を続ける発信型の活動の特徴を見出し、相補的に効果的なベストミックスを探ることが求められる。今後の展開は COVID-19の収束状況と社会的な位置づけに大きく左右されることになるだろう。今後の見通しを立てるのは時期尚早であることから、当面は両方の準備が求められることになるだろう。

時代の趨勢とは言え、入試広報活動は大学にとって必要欠くべからざる営みであると同時に、大きな負担でもある。多くの構成員にとっては本務とは違う雑用の一種とみなされても仕方がない位置づけにある。一方、少なくとも参加者の一部は進路探索のための手がかりを真剣に探っているのであるから、いい加減な対応は逆に大学の評判を落とすことになる。実施する側のモラルを喚起し、入試広報の質を向上させるためには、効果のフィードバックが重要な鍵を握る。入試広報活動の効果の定量的分析と学内広報は、今後も実施と不可分で欠かせない位置づけに置かれることだろう。

予測の難しい、振れ幅の大きな状況の中で、これまでの経験がどの程度通用するのか。的確な状況分析と柔軟な対応力が求められていると言えそうだ。

注

- 1) 本節の内容は、倉元・宮本・久保・南（2020）から主要部分を抜粋し、一部を加筆修正するとともに、久保・宮本（2021）、久保（2022）、久保・宮本（2022）、宮本（2022）、宮本・久保・南・倉元・長濱（印刷中）の内容を加え、構成したものである。
- 2) 大学が行う広報活動の中でも、受験生に向けた情報発信は、他の広報活動とは区別して「入試広報」と呼ばれている。
- 3) 2017年版から「情報開示に熱心」と表現が変わっているが、実質的に同じことを意味している。ただし、2022年版以降該当する項目がなくなった。
- 4) 当時、2度の改組を経て、現在は、主として専任教員の所属組織である東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室と、特任教員を含む実施組織としての東北大学入試センターに組織上は分けられている。基本的に調査分析及び研究活動は入試開発室、広報活動の実施は入試センターの業務として位置付けられている。
- 5) 現在は「学校推薦型選抜」。本学では2014（平成26）年度の農学部を最後に推薦が廃止された。

- 6) 2016（平成 28）年度までは進学説明会。2017（平成 29）年度から個別相談をより強調する目的で「進学説明会・相談会」と呼ぶこととなった。
- 7) 初回は工学部主催。
- 8) イベントによっては、開催当日に参加予約や人数制限を設ける場合もある。
- 9) 本項の内容は、宮本（2022）を引用、編集したものである。
- 10) 全学の委員会に設置された広報ワーキンググループを拡大し、全 10 学部（ただし、医学部は医学科と保健学科の各学科）から選出された委員で構成するようにしたもの。
- 11) 2020（令和 2）年度入学者までは、紙版の質問票による調査であったが、2021（令和 3）年度入学者を対象としたアンケートからはウェブ版の調査票も用意し、紙版の調査票に直接記入してオリエンテーション時に持参するか、ウェブ上で入力するか、回答方法を選択できるように変更した。

文献

- 朝日新聞出版（2020）. 『大学ランキング2021年版』 朝日新聞出版.
- 朝日新聞出版（2021）. 『大学ランキング2022年版』 朝日新聞出版.
- 樫田豪利（2021）. 「学校訪問データベースの制作と活用——戦略的な広報活動を目指して——」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **7**, 291-297.
- 河本敏浩（2009）. 名ばかり大学生—日本型教育制度の終焉—, 光文社新書.
- 久保沙織（2022）. 「オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開」倉元直樹・宮本友弘編 東北大学大学入試研究シリーズ6『コロナ禍に挑む大学入試（1）緊急対応編』 60-81.
- 久保沙織・宮本友弘（2021）. 「オンラインによる個別入試相談会の実践と課題」『教育情報学研究』 **20**, 75-84.
- 久保沙織・宮本友弘（2022）. 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価（2）——前年度との比較を通して——」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **8**, 169-176.
- 久保沙織・南紅玉・樫田豪利・宮本友弘（2021a）. 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」『大学入試研究ジャーナル』 **31**, 394-400.
- 久保沙織・南紅玉・樫田豪利・宮本友弘（2021b）. 「オンラインによる入試広報の展開——『オンライン進学説明会・相談会』の実践を通して——」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **7**, 57-65.
- 倉元直樹（2005）. 「ヴァージニア大学における入学者選抜と広報活動」『教育情報学研究』 **3**, 113-124.
- 倉元直樹（2007）. 「東北大学入試広報戦略のための基礎研究（1）——過去10年の東北大学入試データから描く「日本地図」——」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 **2**, 9-22.
- 倉元直樹（2008）. 「東北大学入試広報戦略のための基礎研究（2）——過去11年の志願動向に見る各募集単位の特徴——」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 **3**, 63-76.
- 倉元直樹（2011）. 「大学入試の多様化と高校教育—東北大学型『学力重視のAO入試』の特徴—」東北大学高等教育開発推進センター編『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』 7-40.
- 倉元直樹・泉毅（2014）. 「東北大学工学部AO入試受験者にみる大学入試広報の効果——そ

- の意義と発信型, 対面型広報の効果——」『日本テスト学会誌』 **10**, 125-146.
- 倉元直樹・佐藤洋之 (2006). 「高校生の大学イメージ」『大学入試研究ジャーナル』 **16**, 179-185.
- 倉元直樹・三原毅・小野寺淑行・鈴木敏明 (2005). 「大学体験と学習意欲」『大学入試研究ジャーナル』 **15**, 1-7.
- 倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・南紅玉 (2020). 「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」——頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ——」『教育情報学研究』 **19**, 55-69.
- 倉元直樹・山口正洋・川又政征 (2007). 「受験生からみた東北大学工学部のAO入試」『大学入試研究ジャーナル』 **17**, 43-49.
- 宮本友弘 (2022). 「コロナ禍での対面オープンキャンパスへの挑戦」倉元直樹・宮本友弘編 東北大学大学入試研究シリーズ6『コロナ禍に挑む大学入試 (1) 緊急対応編』 194-199.
- 宮本友弘・久保沙織・南紅玉・倉元直樹・長濱裕幸 (印刷中). 「オンラインと対面を融合した入試広報活動の展開」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **9**
- 鈴木敏明・夏目達也・倉元直樹 (2003). 「オープンキャンパスとAO入試」『大学入試研究ジャーナル』 **13**, 7-10.
- 寺下榮・村松毅 (2009) 「東海・北陸地区国立大学—入試広報の取組②——エリア別志願者の受験行動に関する調査——」『大学入試研究ジャーナル』 **19**, 145-150.
- 東北大学(2020). 東北大学ビジョン2030 (アップデート版) 東北大学 Retrieved from https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/newsimg/news20200729_00.pdf (2022年10月31日)
- 東北大学百年史編集委員会編 (2009). 『東北大学百年史十一 資料四』, 東北大学.

4. 入試センター教員の活動

入試センターは、本務として高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室に所属する教員に加え、平成28年度からセンター専任の特任教授が配属されている。

入試開発室教員は、大学入試についての全般的研究を行い、我が国の入試改革への貢献を期するとともに、東北大学の入試についての具体的調査研究（追跡調査、入試方法・評価の検討等）を行い、その改善方策を検討している。科研費や学内資金によって、測定評価、選抜方法などについて、諸外国との比較研究を交え、様々な面からの研究を進めている。AO入試は各学部が主体的に企画・実施しているが、入試開発室はそうした調査研究をもとに各学部のシンクタンクないしはコンサルタントの役割を担っており、「学力重視のAO入試」というコンセプトを学部共通に確立している。

特任教授は、高等学校教員の経歴を有し、東北大学入試の作題支援、東北大学入試の改善に関する調査研究や入試広報活動の企画・実施、高大接続事業の企画・実施等における高校との連絡調整、また入試業務（高校の実態を踏まえた提出書類の解釈・評価、提出書類の設計、面接試験等についての助言）等を行っている。

さらに、令和3年度は入試センター所属の教員として4名の名誉教授が加わり、特任教授と共に作題支援業務に従事した。

以下は令和3年度における入試センター教員の主な活動実績である。

4.1. 東北大学入試の中長期的な企画・改善検討

具体的には、入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換等がその中身である。

4.1.1. 全学的委員会におけるワーキング・グループ

学部入試関連の全学的委員会組織の下にワーキング・グループを置き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮した入試広報活動（入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパス等）の企画・運営、入学者選抜の企画・実施における全学支援体制の強化と各種課題解決（私費外国人留学生入試の改善、AO入試Ⅱ期第1次選考筆記試験の採点者の応援体制、大規模災害等不測の事態における意思決定プロセスの整備等）を行うとともに、高校調査等に基づき、以下のような項目について令和4年度（2022年度）以降の入試への対応を検討した。

(1) 入学者選抜の企画・実施に関連する対応

- ① AO入試Ⅱ期第1次選考筆記試験（共同実施）の採点における全学応援体制の整備
- ② 私費外国人留学生入試における入学辞退抑制を目的とした入試日程後ろ倒しの決定
- ③ 私費外国人留学生入試における面接試験の検討結果報告書の改善
- ④ 大規模災害等不測の事態に対応した入学者決定方式の原則の検討
- ⑤ 国際バカロレア入試の出願要件の検討
- ⑥ 令和5年度（2023年度）入学者選抜方針の検討
- ⑦ 新学習指導要領に対応した令和7年度入学者選抜に向けた検討事項の整理

(2) 入試広報活動に関する対応

- ⑧ 入試説明会のオンラインによる実施と仙台会場の対面型実施
- ⑨ オンライン進学説明会・相談会のWebサイトのリニューアルと管理・運営

⑩ 対面型とオンラインのハイブリッド方式によるオープンキャンパスの企画・実施
(3) その他

- ⑪ プライバシーポリシーの策定と令和4年度（2022年度）学生募集要項への記載
- ⑫ A O入試Ⅱ期等合格者の入学前教育に関する検討
- ⑬ A O入試Ⅱ期等の実施日に関する申し合わせと令和4年度（2022年度）以降の大学祭日程変更の要望に関する検討
- ⑭ 令和4年度（2022年度）東北大学新入学者対象アンケートの項目改定

なお、⑩の対面型オープンキャンパスについては、新型コロナウイルス感染症感染拡大により、延期が検討された後に中止となった。

4.1.2 本学入試関連調査・分析及び学内支援等

例年実施している新入学者へのアンケートについて、オンラインによる広報活動の効果を検証するために、一部項目を検討・改定の上、実施し、入学者の動向を分析した。回収率は98.7%。

宮城県内の高等学校との連絡協議会を開催し、本学の入試に関する情報交換を行った。

工学部及び医学部保健学科の入試関連委員会に専門協力者、あるいはオブザーバーとして加わり、A O入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか、各学部のA O入試等に関し相談対応・助言、また、国際学士コースの入試に関して国際学士コース入試小委員会などを通じて助言を行った。

入試企画・広報委員会のワーキング・グループ及びA O入試懇談会等で各学部と協議を重ね、全学支援体制の強化（A O入試Ⅱ期・Ⅲ期の実施本部体制拡充、入試関連FDの実施、入試ミス防止支援等）を進めた。

4.1.3 入試研究と成果の公表

日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的研究（開拓）『『大学入試学』基盤形成への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて——』（課題番号20K20421，令和元年度～令和4年度）を継続して実施するとともに、新たに基盤研究（A）「コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的入試研究」（課題番号21H04409，令和3年度～令和7年度）を獲得した。高大接続改革やコロナ禍の下での入試に関する調査研究を実施し、ウェブサイトを通じて研究成果を公開するなど、大学入試研究の成果発信に努めた。加えて、基盤研究（B）（「主体性」評価支援を目的としたCAT方式による高校生向け標準メタ認知検査の開発）、若手研究（過去問データベースとAIを活用した大学入試個別学力試験作題支援システムの構築）を獲得し、研究を開始した。

全国大学入学者選抜研究連絡協議会（入研協）はオンラインで実施され、5件の研究発表を行った。大学入試研究ジャーナルに4本、高度教養教育・学生支援機構紀要に3本の論文が掲載された。

上記科研費による研究成果の1つである東北大学大学入試研究シリーズ第4巻の監修および、前年度実施の第32回東北大学高等教育フォーラムの成果をまとめた第5巻の監修、編集を行い、刊行した。また、シンポジウム（第34回東北大学高等教育フォーラム）を開催し、その成果について東北大学大学入試研究シリーズ第6巻として出版の準備を進めた（令和4年度刊行済）。

4.2. 入学者選抜の実施

東北大学入学試験実施に関する構成員、入試関連の全学的委員会の構成員として以下のような活動を行った。

- ① 入試実施等に係る業務（大学入学共通テストおよび一般選抜前期・後期日程における実施本部，大学入学共通テストの試験監督，作題支援等）
- ② 全学的な入試関連各種委員会（入学試験審議会，入試実施委員会，入試企画・広報委員会）の委員
- ③ A O入試Ⅱ期実施（志願者926名，合格者269名） 前年比志願者179名減
- ④ A O入試Ⅲ期実施（志願者756名，合格者362名） 前年比志願者109名減
- ⑤ 医学部医学科地域枠入試実施（志願者17名，合格者9名）
- ⑥ 科学オリンピック入試実施（志願者2名，合格者0名）
- ⑦ 国際バカロレア入試実施（志願者2名，合格者1名）
- ⑧ 帰国生徒入試実施（志願者15名，合格者6名）
- ⑨ 私費外国人留学生入試実施（志願者65名，合格者18名） 前年比志願者2名増
- ⑩ グローバル入試Ⅰ期実施（志願者3名，合格者1名）
- ⑪ グローバル入試Ⅱ期実施（志願者6名，合格者1名）
- ⑫ 一般選抜（前期日程）実施（志願者4,392名，合格者1,733名）前年比志願者107名減
- ⑬ 一般選抜（後期日程）実施（志願者1,332名，合格者117名）前年比志願者81名増

4.3. 入試広報活動

入試広報活動として，高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催，高校等主催の説明会・相談会への参加，高校訪問・高校教員との懇談会，冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供，学内への情報提供等を実施した。なお，令和2年度に引き続き，仙台会場を除く入試説明会および，進学説明会・相談会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで代替し，対面で開催した入試説明会仙台会場についても，同様の理由から完全予約制とした。

- ① オンライン入試説明会（高校教員対象）を20回実施，参加者229名（34都道府県202校）（前年実績226名）
- ② 入試説明会仙台会場（高校教員対象）を対面実施，参加者142名（57校）
- ③ オンライン進学説明会（受験生・父兄対象）のウェブサイト開設，訪問者27,433名（前年実績52,077名）
- ④ 民間業者等開催のオンライン説明会 2件
- ⑤ 高校訪問5校（入試センター教員分）
- ⑥ 東北大学案内の作成 35,000部発行
- ⑦ 入試センターウェブサイトによる情報の発信

4.4. 高大接続・連携事業

フォーラム開催，出前授業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画・開催・全学支援等を行った。ただし，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，フォーラムはオンラインと対面のハイブリッド方式で実施，当初予定されていた対面オープンキャンパスは中止となり，オンラインのみでの実施とした。

- ① 第34回高等教育フォーラム（5月17日）「検証 コロナ禍の下での大学入試」を実施，参加者529名（オンライン参加472名，来場参加57名）（前年比154名増）
- ② オンラインオープンキャンパスのウェブサイト開設，訪問者 158,256 名（前年実績 76,278 名），令和3年度入学者閲覧率 31.2%
- ③ 高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣 7 件（対面型 4 件，オンライン 3 件）

4.5. 国立大学アドミッションセンター連絡会議

令和2年度より，国立大学アドミッションセンター連絡会議の事務局を務めている。第34回高等教育フォーラムを当会議のシンポジウムとして共催するとともに，同日に第19回総会を開催し，国立大学間の連携・情報交換の場を提供した。

4.6. 個別教員の活動（高度教養教育・学生支援機構【要覧2021】より抜粋）

倉元 直樹（教授）

〔専門分野〕

教育心理学，社会心理学，教育学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

学部教育 実験心理学各論（心理学統計法），学部教育 実験心理学演習IV

大学院教育 実験心理学特論IV，大学院教育 教育情報学応用論特論 I

大学院教育 教育情報学応用論概論，大学院教育 教育情報学応用論研究演習 I

他大学 東京大学大学院教育学研究科「大学経営政策各論（1）」

〔学位論文指導・審査〕

博士 1 名（副査 1 名）、修士 3 名（主査 3 名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2021 年度 大学院学生（博士課程後期 3 年の課程） 口頭発表件数:1 件 論文発表件数:1 件 学会発表件数:1 件

2021 年度 大学院学生（博士課程前期 2 年の課程） 論文発表件数:3 件

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

日本テスト学会第 19 回大会発表賞：日本テスト学会 2022 年 3 月 5 日

〔その他教育上に関する活動〕

（教育方針の実践例）倉元研究室ゼミ

〔論文〕

（共著）「大学進学における相談相手の選択に関する日中比較研究」 『日本テスト学会誌』 17 巻 1 号 115-120 2021 年 6 月

（共著）「私立大学定員管理厳格化が東日本の公立校等学校に与えた影響——地域と進学実績を

説明要因として——」 『大学入試研究ジャーナル』 32 巻 84-91 2022 年 3 月

(共著)「東北大学志望を促進する要因の検討——新入学者アンケートから——」 『大学入試研究ジャーナル』 32 巻 69-76 2022 年 3 月

(共著)「COVID-19 蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」 『大学入試研究ジャーナル』 32 巻 1-8 2022 年 3 月

(共著)「コロナ禍の下での大学入学者選抜を振り返る——主として 2021 (令和 3) 年度入試に関連して——」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 号 95-107 2022 年 3 月

[著書]

監修;第 10 章『大学入試を設計する』金子書房 2021 年 5 月

監修;第 1 章;第 3 章;第 4 章;第 7 章;第 8 章『大学入試の公平性・公正性』金子書房 2021 年 5 月

[会議の発表・講演]

「東北大学志望を促進する要因の検討——新入学者アンケートから——」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡業議会第 16 回大会 2021 年 5 月

「私立大学転院管理厳格化が東日本の公立校等学校に与えた影響——地域と進学実績を説明要因として——」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡業議会第 16 回大会 2021 年 5 月

「COVID-19 蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡業議会第 16 回大会 2021 年 5 月

「大学進学における高校生の情報活動に関する日中比較研究」 ポスター (一般): 日本教育心理学会第 63 回総会 2021 年 8 月

「東北大学歯学部一般選抜における面接試験導入の効果」 ポスター (一般): 日本テスト学会第 19 回大会 2021 年 9 月

「高大接続改革が高校生に及ぼす影響に関する日中比較研究——大学選択方略を巡る高校生活の実態を中心に——」 口頭 (一般): 日本テスト学会第 19 回大会 2021 年 9 月

「COVID-19 の災禍と世界の大学入試」 その他: 大学入試センター シンポジウム 2021 年 11 月

[共同研究活動]

異文化間交流研究会 (旧 国際学校研究会) 国内 1990 年 10 月～

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

挑戦的研究 (開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて—— 2019 年 4 月～ 代表者

基盤研究(A) コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的入試研究 2021 年 4 月～2026 年 3 月 代表者

[学術関係受賞]

日本テスト学会大会発表賞 (第 19 回大会) 授与機関:日本テスト学会 2022 年 3 月

[学内活動]

全学委員会 入試企画・広報委員会副委員長 2019 年 4 月～2022 年 3 月

全学委員会 入学試験審議会委員 2019 年 4 月～

全学委員会 入試企画・広報委員会入試改革対応ワーキンググループ座長 2021 年 4 月～2022 年 3 月

全学委員会 入試企画・広報委員会情報開示ワーキンググループ座長 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2019年4月～

〔学内教職員支援〕

工学部入試検討委員会専門協力者（その他）

FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第1回）（講師）

FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第7回）（講師）

FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第9回）（講師）

一般入試個別試験作題班会議研修・理科学科長研修（講師）

一般入試個別試験作題班会議研修・各科目長研修（講師）

第7回非公開教員研修「よりよい入学試験の数学2021」（講師）

科研費アドバイザー（全学）（その他）

（緊急）入試事務担当者セミナー（SD）（講師）

歯学部AO入試Ⅱ期面接員FD（講師）

第6回医学部保健学科入試セミナー（講師）

歯学部AO入試Ⅲ期面接員FD（講師）

歯学部一般選抜（前期日程）面接員FD（講師）

〔プロジェクト活動〕

東北大学アドミッションポリシー策定に関わる基礎調査

東北大学高等教育フォーラムの開催

大学入試をめぐる危機対応の構築に向けて——COVID-19の災厄を越えて——

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本テスト学会 日本テスト学会誌編集委員 2004年8月～

日本テスト学会 理事 2005年8月～

国際教育学会（ISE）理事 2006年6月～

国際教育学会（ISE）学会誌「クオリティ・エデュケーション」編集委員 2007年4月～

国際教育学会（ISE）学会賞「館糾賞」選考委員 2007年4月～

全国大学入学者選抜研究連絡協議会 企画委員会委員 2010年4月～

国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～

国立大学アドミッションセンター連絡会議 事務局長 2020年6月～

〔会議の主催・運営〕

（国内会議:主催）第34回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える [17] 検証
コロナ禍の下での大学入試」 2021年5月17日

（国内会議:主催）国立大学アドミッションセンター連絡会議第19回総会 2021年5月17日

（国内会議:主催）プレイバック座談会 大学入試におけるコロナ対策 令和3年度入試の舞台裏
2021年12月10日

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院文学研究科 協力教員 1999年11月～

学内 東北大学入試センター 副センター長 2004年4月～

学外 国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～

学内 東北大学大学院教育学研究科教育情報学応用論協力講座 教授 2018年4月～

〔学外の社会活動〕

高校教員対象入試説明会（仙台二高）

福島県高等学校長協会大学入試対策委員会令和3年度大学進学実務担当者会議

高校教員対象オンライン入試説明会 セッション①

高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑥

高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑪

高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑬

高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑱

株式会社ビスアップ総研「アドミッション・オフィサー研修」ビデオ作製

茨城大学「入学者選抜としての面接のあり方」セミナー

秋田県立秋田高等学校保護者対象講演会

秋田県立秋田高等学校生徒対象東北大学入試説明会・進路講演会

教員との意見交換（酒田東高）

教員との意見交換（鶴岡南高）

夢ナビ LIVE2021in Summer オンライン

高校教員対象オンライン入試説明会 追加セッション①

高校教員対象オンライン入試説明会 追加セッション②

夢ナビ LIVE2021in Autumn オンライン

教員との意見交換（山形県教育庁）

山形県進学指導重点校校長対象講演会及び意見交換会

宮城県仙台第一高等学校教員研修会

山形県立東桜学館中学校・高等学校生徒及び保護者対象講演会

岩手県立盛岡第一高等学校生徒及び保護者対象講演会

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

独立行政法人 大学入試センター 大学入試センター研究開発部主催「緊急オンラインフォーラム」メンバー 2020年6月～2021年4月

〔報道〕

雑誌（その他）「筆記試験にも「主体性」が反映——大学入試めぐり倉元東北大教授らが報告書——」内外教育 2021年5月21日

新聞（資料提供）「入試センター運営曲がり角——赤字年10億円見通し——」読売新聞 2021年6月4日

雑誌（その他）「「検証 コロナ禍の下での大学入試」東北大が高等教育フォーラムを開催 国立大アドミッションセンター連絡会議総会も」文教速報 2021年6月4日

雑誌（その他）「東北大、高等教育フォーラム——コロナ禍の下での大学入試——」文教ニュース 2021年6月7日

雑誌（その他）「コロナ禍の大学入試を検証——東北大学が高等教育フォーラム——」内外教育 2021年6月7日

新聞（資料提供）「AO、推薦の割合増加 変わる大学入試㊦」秋田魁新報 2021年12月26日

雑誌（その他）「コロナ下の大学入試を振り返る——センターゆかりの研究者が「舞台裏」座談会——」 内外教育 2022年1月11日

新聞（資料提供）「入試救済策 戸惑う現場」 読売新聞 2022年1月13日

新聞（資料提供）「最適解は？東北も困惑 共通テスト コロナ救済策」

河北新報 2022年1月13日

新聞（出演・執筆）「ネット進化 性善説限界 不正防止 現場苦悩」 毎日新聞 2022年1月13日

新聞（出演・執筆）「受験 集中できる環境を 異例続いた大学入学共通テスト」

宮崎日日新聞 2022年2月1日

新聞（出演・執筆）「識者評論：異例続いた大学入学共通テスト 問題流出、想定すべき」

秋田魁新報 2022年2月1日

新聞（出演・執筆）「視標：異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」

熊本日日新聞 2022年2月1日

新聞（出演・執筆）「評論：異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」

長崎新聞 2022年2月3日

新聞（出演・執筆）「識者評論：異例続きの大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹だ」

中國新聞 2022年2月5日

新聞（出演・執筆）「オピニオン 論レビュー：異例続きの大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」 高知新聞 2022年2月6日

新聞（出演・執筆）「異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」

山陰中央新報 2022年2月6日

新聞（出演・執筆）「視標：異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」

山陽新聞 2022年2月6日

新聞（出演・執筆）「評論：異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」

佐賀新聞 2022年2月8日

新聞（出演・執筆）「大学入学共通テストの得点低下 問題作成の考え方再点検を」

日本経済新聞 2022年2月22日

〔教育活動〕

受入れ学生：留学生3名（博士課程前期2名，後期1名），社会人2名（前期1名，後期1名）

宮本 友弘（教授）

〔専門分野〕

教育心理学，教育工学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 教育情報学応用論特論Ⅱ 後期

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

他大学 心理学特別演習（統計） 前期

他大学 教育評価・測定 A 前期集中

[学位論文指導・審査]

博士 1 名 (主査 1 名)、修士 3 名 (副査 3 名)

[指導大学院生・学部生の発表件数]

2021 年度 大学院学生 (博士課程後期 3 年の課程) 論文発表件数:1 件 学会発表件数:2 件

[その他教育上に関する活動]

放送大学「BS キャンパス ex 特集 大学入試をどう考えるのか 第 4 回 高大接続における多面的・総合的評価の実際」に講師として出演

長崎大学教育学部 FD の講師として入試改善に関する講演を行った。

長崎大学工学部 FD の講師として入試改善に関する講演を行った。

[論文]

(共著) 「理学療法士国家試験対策における学習動機づけの調整スタイルの類型化とその特徴」

『保健医療学雑誌』 12 巻 1 号 52-61 2021 年 4 月

(共著) 「メタ認知の標準検査開発のための予備的検討—「主体的に学習に取り組む態度」の評価の支援に向けて—」 『教育情報学研究』 20 巻 51-57 2021 年 12 月

(共著) 「オンラインによる個別入試相談会の実践と課題」 『教育情報学研究』 20 巻 75-84 2021 年 12 月

(共著) 「コロナ禍の下での大学入学者選抜を振り返る—主として 2021 (令和 3) 年度入試に関連して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 巻 95-107 2022 年 3 月

(共著) 「東北大学志望を促進する要因の検討—新入学者アンケートから—」 『大学入試研究ジャーナル』 32 巻 69-76 2022 年 3 月

(共著) 「COVID-19 蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」 『大学入試研究ジャーナル』 32 巻 1-8 2022 年 3 月

(共著) 「日本の大学入試における「外国学歴・資格評価 (Foreign Credential Evaluation: FCE)」についての—考察—中国からの学士課程の志願者を中心に—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 巻 249-258 2022 年 3 月

(共著) 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価 (2) —前年度との比較を通して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構』 8 巻 169-176 2022 年 3 月

(共著) 「中年期における主観的幸福感と人間関係観との関連」 『聖徳大学研究紀要』 32 巻 1-5 2022 年 3 月

(共著) 「視写力に影響を与える要因に関する考察 —工学部生と教育学生との比較にもとづいて—」 『九州国語教育学会紀要』 11 巻 1-12 2022 年 3 月

[著書]

編者、序章担当『大学入試を設計する』金子書房 2021 年 5 月

[会議の発表・講演]

「視写に対する音読の影響」ポスター (一般) : 第 140 回全国大学国語教育学会 2021 年春期大会(オンライン) 2021 年 5 月

「COVID-19 蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」口頭 (一般) : 令和 3 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 16 回) 2021 年 5 月

「東北大学志望を促進する要因の検討—新入学者アンケートから—」口頭 (一般) : 令和 3

年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第16回） 2021年5月
「理学療法士養成課程の初年次学生における学習動機づけ変化の類型と特徴」ポスター（一般）：
日本教育心理学会第63回総会 2021年8月
「視写過程の発達の様相—小学校4年生と大学生との比較から—」口頭（一般）：全国大
学国語教育学会第141回 2021年秋期大会(オンライン) 2021年10月
「レジャー志向性と運動・スポーツ実施との関連の検討 ～男女の違いに着目して～」ポ
スター（一般）：日本生涯スポーツ学会第23回大会 2021年10月
「中年期における人間関係観」口頭（一般）：日本発達心理学会第33回大会 2022年3月

[総説・解説記事]

(単著)「オンライン教育と子どもの「相性」について、思うこと／考えること」『指導と評価』
67巻5月号 4-5 2021年5月
(単著)「標準学力検査によるアセスメント—教研式NRTを中心に—」『指導と評価』67巻
7月号 6-8 2021年7月
(単著)「メタ認知をどうとらえ、指導に生かすか」『指導と評価』67巻9月号 4-5 2021年
9月
(単著)「心理学からみた「個別最適な学び」—適性交相互作用とプログラム学習を中心に—」『指
導と評価』67巻12月号 15-17 2021年12月
(単著)「教師が「つくる」エビデンス—研究デザインの工夫と標準検査の活用—」『指導と評
価』68巻2月号 23-25 2022年2月
(単著)「全国学力調査の変わらぬ課題」『指導と評価』68巻3月号 2-3 2022年3月

[科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）]

挑戦的研究（開拓） 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向
けて— 2019年4月～2023年3月 分担者
基盤研究(B) 芸術統合型学習を通じた美術教育の再定義～横断的実践調査及び質問紙法によ
る学力分析 2020年4月～2022年3月 分担者
基盤研究(C) 中年期における自己充實的達成動機と精神的健康との関連に関する研究 2020
年4月～2023年3月 分担者
基盤研究(C) 書字基礎データ採取のための調査研究 2020年4月～2023年3月 分担者
基盤研究(B) 「主体性」評価支援を目的としたCAT方式による高校生向け標準メタ認知検査
の開発 2021年4月～2026年3月 代表者
基盤研究(A) コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的・大学入
試研究 2021年4月～2026年3月 分担者

[学内活動]

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2016年4月～2022年3月
全学委員会 入試実施委員会委員 2016年5月～
全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長(副) 2017年4月～2022年3月
全学委員会 広報戦略推進室員 2018年4月～
全学委員会 入試企画・広報委員会広報WG座長 2020年4月～2022年3月
全学委員会 運輸交通専門委員会委員 2021年7月～

部局内委員会 工学部入試検討委員会委員 2016年4月～
部局内委員会 保健学科入試部会オブザーバー 2016年4月～
部局内委員会 施設整備委員会委員 2018年4月～
部局内委員会 施設整備委員会委員長 2021年4月～
部局内委員会 総務委員会委員 2021年4月～
部局内委員会 機構長補佐会議構成員 2021年4月～
その他の主要活動 令和4年度大学入学共通テスト試験(第1日程,第2日程)実施本部員 2022年1月～2022年1月
その他の主要活動 令和4年度一般選抜(前期日程)入学試験実施本部員 2022年2月～2022年2月
その他の主要活動 特別選抜(私費外国人留学生入試)オンライン学力試験実施責任者 2022年3月～2022年3月

[学内教職員支援]

令和3年度入試センター教員FDの企画・運営を行い、第3回「東北大学の入試広報活動①」の講師を担当した。(FD/SDの企画・運営)
文学部の令和4年度AOⅡ期面接試験FDの講師を担当し、出願状況、令和3年度の第2次選考の分析結果、大学入試の諸原則、面接試験のポイント、面接員の心得、入試ミスについて解説した。(講師)
文学部の令和4年度AOⅢ期面接試験FDの講師を担当し、出願状況、令和3年度の第2次選考の分析結果、面接試験のポイント、面接員の心得について解説した。(講師)

[学会活動および外部機関における活動]

国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)国内専門委員 2017年2月～
日本テスト学会 理事 2017年8月～
日本テスト学会 編集出版委員 2017年8月～
日本教育心理学会 「教育心理学研究」編集委員会委員 2019年1月～2021年12月
日本教育心理学会 「教育心理学年報」編集委員会委員 2022年1月～2025年3月

[会議の主催・運営]

(国内会議:運営) 第34回東北大学高等教育フォーラム 2021年5月17日
(国内会議:運営) 【プレイバック座談会】大学入試におけるコロナ対策—令和3年度入試の舞台裏— 2021年12月19日

[学外の社会活動]

山梨学院高等学校主催説明会(オンライン)
オンライン入試説明会
入試説明会(仙台)
夢ナビライブ2021 in Summer(オンライン)
東北大学オンライン進学相談会2021
第63回指導と評価大学講座
愛知県みよし市立三好ヶ丘小学校 校内現職教育研修
オンライン入試説明会

夢ナビライブ 2021 in Autumn (オンライン)
東北大学オンライン進学相談会 2021
宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

株式会社 図書文化社 「指導と評価」編集委員 2016年4月～
一般財団法人 応用教育研究所 理事 2017年11月～
一般財団法人 日本図書文化協会 理事 2019年11月～

〔その他、大学運営・支援に関わる活動実績〕

入試広報の責任者として、オンライン入試説明会（高校教員向け）、オンライン進学説明会・相談会（高校生・受験生向け）、オンラインオープンキャンパス、対面オープンキャンパス（最終的には中止）の企画・運営において中心的な役割を果たした。

久保 沙織 (准教授)

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 教育情報学応用論概論 後期
他大学 社会調査法 後期集中

〔論文〕

（共著）「"Using peer role-playing to improve students' clinical skills for musculoskeletal physical examinations."」『BMC medical education』 21巻 322号 2021年6月

（共著）「オンラインによる個別入試相談会の実践と課題」『教育情報学研究』 20巻 75-84 2021年12月

（共著）「メタ認知の標準検査開発のための予備的検討—「主体的に学習に取り組む態度」の評価の支援に向けて—」『教育情報学研究』 20巻 51-57 2021年12月

（共著）「東北大学志望を促進する要因の検討—新入学者アンケートから—」『大学入試研究ジャーナル』 32巻 69-76 2022年3月

（共著）「コロナ禍の下での大学入学者選抜を振り返る—主として2021（令和3）年度入試に関連して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 95-107 2022年3月

（共著）「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価（2）—前年度との比較を通して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 169-176 2022年3月

（共著）「個別入試における作題関連業務を規定する要因の探索的分析と仮説モデルの構築—作題支援システムの構築を目指して—」『大学入試研究ジャーナル』 32巻 98-105 2022年3月

〔著書〕

終章「大学入試研究に求められる Validity と Validation」『大学入試を設計する』金子書房 2021年5月

〔会議の発表・講演〕

「基調講演2 オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：第34回東北大学高等教育フォーラム「検証 コロナ禍の下での大学入試」 2021年5月

「個別大学の入試問題作成において重視される観点の探索的分析—作題支援システムの構築を目指して—」 口頭（一般）：令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第16回） 2021年5月

「東北大学志望を促進する要因の検討—新入学者アンケートから—」 口頭（一般）：令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第16回） 2021年5月

〔総説・解説記事〕

（単著）「基調講演 2: オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開」 『IEHE TOHOKU Report 85 第34回東北大学高等教育フォーラム報告書 新時代の大学教育を考える[18]「検証 コロナ禍の下での大学入試」』 22-39 2021年9月

（共著）「シンポジウムのアンケート結果と実施運営のバックヤード」 『シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策: 令和3年度の舞台裏」報告書』 85-100 2022年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 相関係数の異常な挙動の解明とそれに対する対処 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(C) 超高齢社会を支える卒前からの四肢脊柱診察教育プログラムの開発と評価 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(C) 筆記試験、実技試験、業務基盤型評価を合否判定に組み込むための信頼性検証 2019年4月～2022年3月 分担者

挑戦的研究（開拓） 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて— 2019年6月～2023年3月 分担者

若手研究 過去問データベースと AI を活用した大学入試個別学力試験作題支援システムの構築 2021年4月～2024年3月 代表者

基盤研究(A) コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的入試研究 2021年4月～2026年3月 分担者

基盤研究(B) 「主体性」評価支援を目的とした CAT 方式による高校生向け標準メタ認知検査の開発 2021年4月～2026年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2020年4月～2022年3月

全学委員会 情報開示 WG 2020年4月～2022年3月

全学委員会 入試実施委員会委員 2020年5月～

全学委員会 広報拡大 WG 2021年4月～2022年3月

全学委員会 入試改革対応 WG 2021年4月～2022年3月

全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長（副） 2021年4月～

部局内委員会 工学部入試検討委員会専門協力者 2020年4月～

部局内委員会 医学部保健学科入試部会専門協力者 2021年4月～

その他の主要活動 大学入学共通テスト 試験実施本部員 2022年1月～2022年1月

その他の主要活動 一般選抜前期日程 試験実施本部員 2022年2月～2022年2月

その他の主要活動 私費外国人留学生入試試験監督（オンライン） 2022年3月～2022年3月

〔学内教職員支援〕

教育FD「令和3年度入試センター教員対象FD」の企画・運営（FD/S Dの企画・運営）

教育 FD「令和 3 年度入試センター教員対象 FD」の第 5 回講師を担当し、「入試研究およびエビデンスに基づく制度設計・コンサルテーション」と題して講演した。(講師)

令和 3 年度 教育 FD「第 7 回非公開教員研修『よりよい入学試験の数学 2021』」で講師を担当し、「第 2 部 一般選抜の実施結果について」と題して講演した。(講師)

文学部主催の AO 入試 II 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD で、講師として質疑応答に対応(講師)

歯学部主催の AO 入試 II 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD にオブザーバーとして参加(その他)

文学部主催の AO 入試 II 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD で、講師として質疑応答に対応(講師)

医学部保健学科入試 FD・SD にオブザーバーとして参加(その他)

歯学部主催の AO 入試 III 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD にオブザーバーとして参加(その他)

文学部主催の AO 入試 III 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD で、講師として質疑応答に対応(講師)

歯学部主催の一般選抜前期日程面接担当教員対象の FD にオブザーバーとして参加(その他)

[学会活動および外部機関における活動]

日本行動計量学会 広報委員会会報小委員会委員 2019 年 4 月～

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 試験信頼性向上検討委員会委員 2020 年 4 月～

日本教育心理学会 機関誌『教育心理学研究』常任編集委員会 2021 年 1 月～2023 年 12 月

日本行動計量学会 大会担当委員会委員 2021 年 5 月～

[会議の主催・運営]

(国内会議:運営) シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策: 令和 3 年度入試の舞台裏」2021 年 12 月 19 日

[学外の社会活動]

仙台市内六校会主催東北大学入試説明会

東北大学オンライン入試説明会

夢ナビライブ 2021Web in Summer

東北大学オンライン進学相談会

東北大学オンライン入試説明会(内容確定版)

3 大学合同説明会

山形県立米沢興譲館高等学校での大学説明

夢ナビライブ 2021Web in Autumn

東北大学オンライン進学相談会

山形県教育庁高校教育課訪問

山形県進学指導重点校校長対象講演会

試験信頼性向上検討委員会第 20 回講演会「臨床実習前 OSCE と臨床実習後 OSCE・Post-CC PX の試験成績の解析と評価のあり方の検討」における講演

埼玉県立大宮高等学校での大学説明
宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔教育活動〕

長崎大学教育学部 入試改革 FD 講師

長崎大学教育学部主催で実施された「入試改革 FD」で講師を担当し、「エビデンスに基づく入試改善」と題して講演した。

〔大学運営・支援及び医療業務〕

- ・TUMUG（東北大学男女共同参画推進センター）オンラインランチミーティングで、「個別入試における作題関連業務を規定する要因の探索と認知プロセスモデルの構成—作題支援システムの構築を目指して—」と題し、本学の女性研究者に向けて、自身の研究に関する発表を行った。
- ・高度教養教育・学生支援機構主催で実施されている第 87 回正午 PD 会で、「東北大学におけるオンラインを活用した入試広報活動の実践と評価」と題し、自身の研究に関する発表を行った。

〔社会貢献〕

『Behaviormetrika』の査読 1 本, 『Japanese Psychological Research』の査読 1 本, 『心理学研究』の査読 1 本, 『教育心理学研究』の査読 4 本

樫田 豪利 (特任教授)

〔専門分野〕

高等学校理科教育 (化学)

機器活用

〔兼務、兼業など〕

学外 (株) 駿台文庫 著者 2009 年 4 月～

末永 仁 (特任教授)

〔専門分野〕

教科教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

〔論文〕

(共著) 「私立大学定員管理の厳格化が東日本の公立高等学校に与えた影響」 『"大学入試研究ジャーナル No.32"』 2022 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「第 6 セッション [志願者動向, 定員管理の厳格化]」 口頭 (一般) : 令和 3 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 2021 年 5 月

〔その他研究活動〕

(書評) 大学入学共通テスト問題 (生物基礎, 生物) の研究

[学内教職員支援]

工学部入試検討委員会における助言（その他）

[学外の社会活動]

仙台市内六校会主催東北大学入試説明会

オンライン入試説明会

東北大学入試説明会

夢ナビライブ 2021 及び東北大学進学相談会

夢ナビライブ 2021 及び東北大学進学相談会

東北大学一宮城県高進研情報交換連絡会

[その他]

入研協への出席

南 紅玉 (助教)

[専門分野]

教育学

[担当授業科目（他大学も含む）]

全学教育 教育情報学応用論概論 後期

他大学 持続可能な社会 後期

他大学 ジェンダー論 前期

[その他教育上に関する活動]

オンラインオープンキャンパスにて私費外国人留学生入試説明会を実施し、進路指導を行った。

[論文]

（単著）「大学入試における各国の COVID-19 対策—日本、中国、韓国の共通試験を事例に—」
『日本テスト学会誌』 17 巻 1 号 61-74 2021 年

（共著）「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」『大学入試研究ジャーナル』
31 巻 394-400 2021 年

（単著）「大学入試における不正行為の未然防止について考える 第二回 韓国の修能（大学修学
能力試験）不正防止対策について」『金子書房「こころ」のための専門メディア note』 2022
年 3 月

（単著）「大学入試における不正行為の未然防止について考える 第一回 中国の高考（大 学入試）
不正防止対策について」『金子書房「こころ」のための専門メディア note』 2022 年 3 月

[総説・解説記事]

（共著）「シンポジウムのアンケート結果と実施運営のバックヤード」『シンポジウム「大学入
試におけるコロナ対策：令和 3 年度の舞台裏」報告書』 85-100 2022 年 3 月

[科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）]

若手研究 国際結婚移住女性のエンパワーメントとノンフォーマル教育 2018 年 6 月～2022 年
3 月 代表者

挑戦的研究（開拓） 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向
けて— 2019 年 6 月～2023 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 令和4年度一般選抜（前期日程）入学試験実施本部員 2022年2月～2022年2月

その他の主要活動 入学試験審議会オブザーバー 2021年10月～

その他の主要活動 入試広報委員会オブザーバー 2021年10月～

その他の主要活動 入試実施委員会オブザーバー 2021年10月～

その他の主要活動 令和4年度大学入試共通テスト試験（試験監督） 2022年1月～2022年1月

その他の主要活動 特別選抜（私費外国人留学生入試）オンライン学力試験監督 2022年3月～2022年3月

〔学会活動および外部機関における活動〕

【プレイバック座談会】大学入試におけるコロナ対策—令和3年度入試の舞台裏—オンライン配信担当 2021年12月～2021年12月

〔学外の社会活動〕

宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会